

慶應義塾大学三田メディアセンター マイクロ資料リスト(日本・中国・朝鮮語)

過去に受け入れたマイクロ資料のうち一部は、KOSMOSIに収録されていません。このリストはそれを補完するための簡易リストです。このリストだけで、すべてのマイクロ資料を網羅的に調べることはできません。

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@26	朝野旧聞【ホウ】藁	1	50リール	林述斎編並監修 内閣文庫	東京:雄松堂マイクロフィルム出版, 1964.	読みは「ちょうやきゅうぶんほうこう」。江戸幕府が徳川氏創業の由緒と家康の事蹟を明らかにするために編纂した詳密、精細な徳川氏創業史ですが、記述した歴史ではなくて、関係史料を広く収集し、これを年月順、事項別に編修したものです。  文政二年(1819)に、大学頭林述斎(諱は衡、天保十二年六月没、享年七十四)が監修し、戸田氏栄以下のペニ十余人の幕臣が編集にあたり天保十二年(1841)に完成しました。その体例は編年体で、主要事項を綱文として大書し、一字を下げて広く古記録を原文のままに引証し、その引用史料名を明記し、史料の記事に異同あるものはその旨を注記し、必要な点には按文を加えて解説しながら、「古記を考据として敢て臆断を加へず」という立場をとっているため、史料集として甚だ進歩した、価値の高いものとなっています。  現存する写本は全て内閣文庫に所蔵されていますが、このマイクロフィルムはそのうちの天保十三年十二月に献上された一部を撮影したものです。	歴史/日本/江戸以前	・『内閣文庫所蔵朝野旧聞藁・寛永諸家系図伝:マイクロフィルム版解説・細目・索引』東京:雄松堂 1964(YA@26-95)	・活字本:戸田氏栄他 編『内閣文庫所蔵 史籍叢刊』49巻(吸古書院 1981-86)(A@210.088@N2@2-)	・国立公文書館デジタルアーカイブで全文公開 https://www.digital.archives.go.jp/
YA@571	中国調査旅行報告書	1	136リール	原本の発行元:東亜同文書院  所蔵館:愛知大学	東京:雄松堂, 1996.	東亜同文書院の学生達による戦前(1916-1935年)の中国各地の調査報告書の生原稿を撮影したものです。  愛知大学の前身である東亜同文書院は、1901年に上海に建学された日本人のための高等教育機関で、多数の有能な卒業生を産業界や植民地行政の分野に輩出した名門かつビジネススクールでした。設立の目的は日中間の文化交流事業や貿易実務に必要な人材を養成することでしたが、その実践として学生達は中国全土を踏査する調査旅行を行いました。研究テーマは、産業、交通、人口、教育、社会組織、災害など多岐に渡ります。「大旅行」と呼ばれたこの調査旅行は5期生の最終年度(1907年)から終戦頃まで行われ、卒業論文風の「調査報告書」と日記風の「大旅行誌」が提出されましたが、本マイクロフィルムは「調査報告書」にあたります。  本マイクロフィルムは愛知大学の「霞山文庫」に現存する「調査報告書」を収録したものです。全てが現存しているだけでなく、愛知大学が所蔵するのは1916年～1919年、1921年～1935年までの420冊です。  ■各リールの収録内容 大正5年(1916) 第10回(第13期生) REEL 1-14 大正6年(1917) 第11回(第14期生) REEL 15-26 大正7年(1918) 第12回(第15期生) REEL 27-40 大正8年(1919) 第13回(第16期生) REEL 41-26 大正9年(1920) 第14回(第17期生) 現存しません 大正10年(1921) 第15回(第18期生)REEL 47-56 大正11年(1922) 第16回(第19期生)REEL 57-68 大正12年(1923) 第17回(第20期生)REEL 69-77 大正13年(1924) 第18回(第21期生)REEL 78-80 大正14年(1925) 第19回(第22期生)REEL 81-89 大正15年(1926) 第20回(第23期生)REEL 90-96 昭和2年(1927) 第21回(第24期生) REEL 97-103 昭和3年(1928) 第22回(第25期生) REEL 104-110 昭和4年(1929) 第23回(第26期生) REEL 111-117 昭和5年(1930) 第24回(第27期生) REEL 118-124 昭和6年(1931) 第25回(第28期生) REEL 125	経済・経営/中国/現代:商業・会計/中国/現代:産業/中国/現代:風俗・文化/中国/現代	(付録)『東亜同文書院 中国調査旅行報告書 総目次』(付録:大旅行誌. 解説:藤田佳久)東京:雄松堂 (YA@571@Guide)(3階マイクロ索引)	『東亜同文書院 中国大旅行』14リール(YA@572)※大旅行に参加した学生達の日記形式の旅行記録。  藤田佳久編著. 1994-. 『東亜同文書院・中国調査旅行記録』豊橋:愛知大学, 東京:大明堂.(A@292.209@T4@2-1)※本マイクロフィルムに含まれなかった、調査報告書に途中から挿入された日誌部分。	別タイトル:中国調査旅行報告書  原題:支那調査旅行報告書
YA@482	大東急記念文庫所蔵江戸文学総瞰	1	90巻	川瀬一馬編 大東急記念文庫	東京:雄松堂フィルム出版, 1972.	善本珍書で知られる大東急記念文庫の所蔵する江戸文学版本のうち、主に旧久原文庫の878点1530冊を収録しています。 中心はお伽草子・仮名草子・浮世草子・読本・滑稽本・洒落本・人情本・赤本・黒本・黄表紙・合巻などの小説類と、古浄瑠璃・義太夫節などの劇文学です。  久原文庫は事業家・産業者として知られ、後に政友会総裁となった久原房之助(1869-1965)の文庫です。久原の資本により、鉱物学者・書誌学者であった和田維四郎(1856-1920)が蒐集しました。久原文庫は京都帝国大学図書館(当時)に寄託されましたが、大東急再編成記念図書館(大東急記念文庫の前身)の設立に向けて、昭和22年に東急電鉄の主宰者五島慶太が一括購入しました。  近世絵入文学書の原本としては質量ともに抜きんでており、江戸の文芸の発展を研究するうえで欠かすことのできない貴重なコレクションといえます。  なお、索引である『江戸時代仮名絵入文学書概論』には、総目録に加えて解説と、別に撮影された図版189葉が収録されています。	文学・語学/日本/江戸以前	・(付録)川瀬一馬著『江戸時代仮名絵入文学書概論:「江戸文学総瞰」解説並に収録書目』(YA@482@Guide-1)(3階マイクロ索引)	・大東急記念文庫所蔵古写古版物語文学総瞰(YA@484)	
YA@484	大東急記念文庫所蔵古写古版物語文学総瞰	1	80巻	川瀬一馬編 大東急記念文庫	東京:雄松堂フィルム出版, 1973.	善本珍書で知られる大東急記念文庫の所蔵する中古中世物語文学の古写本・古版本のうち、主に旧久原文庫の878点1530冊を収録しています。  久原文庫は事業家・産業者として知られ、後に政友会総裁となった久原房之助(1869-1965)の文庫です。久原の資本により、鉱物学者・書誌学者であった和田維四郎(1856-1920)が蒐集しました。久原文庫は京都帝国大学図書館(当時)に寄託されましたが、大東急再編成記念図書館(大東急記念文庫の前身)の設立に向けて、昭和22年に東急電鉄の主宰者五島慶太が一括購入しました。  内容は古物語・説話物語・歴史物語・軍記物語・随筆・日記に分類されています。伝本の少ない稀覯書も数多く含まれており、中でも『平家物語(延慶本)』は文化的・学術的にも価値が高く、重要文化財に指定されています。また狩谷掖斎・富士谷御杖・木村正辞をはじめ、江戸後期から明治期にかけての著名な国学者らの自筆本や書入本が目立つのも特色です。  なお、『古写古版物語文学書解説』の巻末にリール別索引が付されています。各巻の解説と、別に撮影された図版216葉が収録されています。	文学・語学/日本/江戸以前	・川瀬一馬著『古写古版物語文学書解説』(RA@913@K2@1)(1階一般書架)	・大東急記念文庫所蔵江戸文学総瞰(YA@482)  ・1982-83年.『平家物語:延慶本』[東京]:大東急記念文庫.(JL@2A@473@1-6)  ・1967年.『古活字版之研究』増補版.東京:The Antiquarian Booksellers Association of Japan.(JL@8A@132@1-3)	

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@478	太政類典; 公文類聚	1	250リール	総理府内閣総理大臣官房総務課	〔東京〕:日本マイクロ写真(製作); 東京:雄松堂(発売),1969	『太政類典』は太政官日誌や公文録等から典例条規を採録し、制度、官制、官規、儀制など19部門に分類しさらに年代により5編に分けて編集されたものです。この資料のリール1からリール169には以下の年代が収録されています。 第1編 慶應3年(1867)から明治4年(1871) 第2編 明治5年(1872)から明治10年(1877) 第3編 明治11年(1878)から明治12年(1879) 第4編 明治13年(1880) 第5編 明治14年(1881)  第6編以降は『公文類聚』という名称に改められました。『公文類聚』は明治15(1882)年から明治18(1885)年までの第6編から第9編については23部門に分類して年代順に編集されました。リール170からリール221に収録されています。  なお明治3(1870)年から明治12(1879)年までの本編にもれた事項は『太政類典外編』および『太政類典雑部』としてまとめられ、リール222からリール240に収録されています。  『太政類典』『公文類聚』ともに明治初期の法制度、政策決定の過程などを知ることのできる資料です。  国立公文書館( <a href="http://www.archives.go.jp/owning/index.html">http://www.archives.go.jp/owning/index.html</a> )のデジタルアーカイブシステムでキーワード検索をすることができます。	法律・判例/日本/江戸以前:法律・判例/日本/明治:歴史/日本/江戸以前:歴史/日本/明治	・ Reel241～250に各編別総目次あり ・ (付録)『マイクロフィルムリール別太政類典公文類聚総目録』(YA@478@Index)(3階マイクロ索引)		・国立公文書館デジタルアーカイブで全文公開 <a href="https://www.digital.archives.go.jp/dajou/">https://www.digital.archives.go.jp/dajou/</a>
YA@559	江戸幕府刊行物集成	1	120リール	マイクロフィルム版「江戸幕府刊行物」編集委員会	東京:雄松堂, [198-?]	徳川家康は木活字を用いて『孔子家語』『六韜』『三略』などの伏見版、ついで『群書治要』などの駿河版を刊行しましたが、その後も江戸幕府は昌平坂学問所あるいは医学館から数多くの資料を刊行しました。また江戸末期には洋学の導入と洋式兵法の普及のために天文方・長崎奉行所・洋書調所・陸軍所などから出版したものも多くあります。このマイクロフィルムにはこれらの幕府刊行物を、内閣文庫を中心に20余の図書館・研究機関の協力を得て収録しています。	図書/日本/江戸以前	・ (付録)収録書総目録 (YA@559@Index)(3階マイクロ索引)  ・ 福井保著.1985.『江戸幕府刊行物』(RA@027.1@F1@2)		・内閣文庫分は国立公文書館デジタルアーカイブで公開 <a href="https://www.digital.archives.go.jp/">https://www.digital.archives.go.jp/</a>
YA@567	江戸時代流通字引大集成: 国立国会図書館蔵: 亀田次郎蒐集	1	94リール	国立国会図書館	東京:雄松堂書店, 1990.	亀田次郎(1876-1944)は東大出身の国語学者で、その古辞書コレクションは昭和初期の学界でも著名でしたが、その没後に亀田文庫は国会図書館に収蔵されました。『節用集』が室町期に流通した通俗辞書であることはよく知られていますが、江戸期には、さらに通俗化して絵入りなどの手軽な辞書類が市民の各階層に流通していました。すなわち、この辞書類は江戸期の社会・生活・文化の実相を反映したもので、それは江戸文化史研究の基本資料と呼べるものです。このマイクロ資料は亀田コレクションのなかから江戸期に流通した辞書338点を、古辞書研究で著名な川瀬一馬博士監修のもとに収録したものです。	文学・語学/日本/江戸以前	・ (付録)目録:A5判80頁 (YA@567@Guide)		・NDLデジタルコレクションで一部公開 <a href="https://dl.ndl.go.jp/">https://dl.ndl.go.jp/</a>
YA@479	営業報告書集成	1	2282リール		東京:雄松堂フィルム出版, 1950-	明治初年の会社制度の導入期から昭和25年の戦後商法の改正に至るまで、計8,090社の「営業報告書」及び関係資料を収録しています。  営業報告書は、会社経営における重要な基礎的データです。海外では一般に「アニュアル・レポート」(annual report)と称され、会社が各決算期ごとに作成し、株主総会に提出、あるいは株主に配布する経営活動成果の報告書です。戦後は上場会社で「有価証券報告書」の作成が義務づけられたことや、個々の株主の役割の低下などにより、営業報告書は簡略化され、形式的なものとなりましたが、戦前期においては実質的で内容も豊富であり、企業経営を研究する上で有用な資料です。  第一集 917社:400リール(主に個人蔵) 第二集 460社(新規304社:第一集の欠号補充156社):110リール(主に個人蔵) 第三集 831社(すべて第一～二集の欠号補充):120リール(国立国会図書館蔵) 第四集 3,057社(すべて新規企業):480リール(国立国会図書館蔵) 第五集 5,733社(新規3286社:欠号補充2,447社):852リール(東京大学経済学部図書館蔵) 第六集 1,006社(新規183社:欠号補充823社):180リール(神戸大学経済経営研究所蔵) 第七集 1,363社(新規283社:欠号補充1,080社):90リール(大阪学院大学蔵) 第八集 588社(新規60社:欠号補充528社):50リール(東京大学経済学部図書館蔵)  第一集から第五集までの収録企業7,564社については、企業名から収録リール番号、年次、商号変更、変遷などを一覧できる総目録『マイクロフィルム版営業報告書集成総目録 解題』がありますが、第六集以降については各集ごとの『収録書総目録』を参照する必要があります。	経済・経営/日本:経済・経営/日本/明治:経済・経営/日本/大正:経済・経営/日本/昭和	・ (付録)『マイクロフィルム版営業報告書集成総目録解題』東京:雄松堂(YA@479@1/5@Guide)(3階マイクロ索引)  ほか、第1～8集各々に『収録書総目録』あり(YA@479@1-Guideほか)(3階マイクロ索引)		第九集は未所蔵。
YA@547	江藤新平関係文書	1	17リール	広瀬順皓編修 江藤茂国氏、佐賀県立図書館所蔵	東京:北泉社, 1989.12	江藤新平は肥前佐賀藩出身の江戸末期・明治初期の政治家です。明治維新後文部大輔、左院副議長を経て、明治5(1872)年初代司法卿となり裁判所の建設、民法編纂など近代司法制度の確立に貢献しました。そののち参議となりましたが、征韓論をめぐる論争に敗れて下野し、明治7(1874)年に佐賀の乱を起こし捕らえられ刑死しました。  当マイクロフィルムには、累代江藤家に秘蔵されていた書簡、書類(第1～3リール)と、佐賀県立図書館所蔵の書簡、書類(第4～17リール)が収録されています。内容は、三条実美、大木喬任、岩倉具視らとの書簡や、明治新政、政体・官制案覚書、各種意見書、法制草案など、明治初期の政治史料が多数収録されています。  付属の冊子目録には解説・略年譜が収録されており、リール別、主要史料別に検索ができます。	政治・外交/日本/明治:歴史/日本/明治	・ (付録)『江藤新平関係文書』(YA@547@Guide)(3階マイクロ索引)	・ 毛利敏彦.2002年.『明治維新政治外交史研究』東京:吉川弘文館	

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@515	府県史料	1	378リール	国立公文書館	東京: 雄松堂書店, [1962]	『府県史料』とは、1874(明治7)年から1885(明治18)年にかけて行われた各府県の沿革調査の集成です。対象となった府県は1道3府41県(香川は当時愛媛及び徳島に付属、沖縄県はなし)です。府県によって細目の不統一や記述の精粗はありますが、基本は政治部と制度部の二部構成で、計数的な調査がされている点が特長です。  明治維新後、政府は国史編修事業を重要視し、全国的な地方行政の調査に着手しました。太政官正院に歴史課(1875年に修史局、1877年に修史館と改組)と地誌課が置かれ、前者は沿革調査を中心とした『府県史料』の編纂に、後者は現状実態調査に主眼を置いた『皇国地誌』の編纂に従事しました。太政官達147号(明治7年)によって各府県が調査を命じられ、主題別に収集された史料が歴史課へ提出されました。  太政官制度廃止及び内閣制度発足(1885年)後、国史編修は中断され、『府県史料』も未定稿に留まりましたが、後に公文書として内閣記録課庶務掛にて保管され、1914年に内閣文庫(現・国立公文書館内閣文庫)へ移管されました。同時期に編纂されていた『皇国地誌』は関東大震災により焼亡したため、『府県史料』は、明治初期の地方の実態を知ることが出来る数少ない資料です。	歴史/日本/明治	{付録}『府県史料 解説・細目』(YA@515@Index)(3階マイクロ索引)	・ 福井保.1974年.「府県史料」の解説と内容細目『北の丸』2号,67-125頁.  ・ 佐藤秀夫編.1985年.『府県史料教育』全26巻.東京:ゆまに書房.	・国立公文書館デジタルアーカイブで全文公開 https://www.digital.archives.go.jp/
YA@521	後藤新平文書	1	88リール	水沢市立後藤新平記念館編	水沢:水沢市立後藤新平記念館, [1980.2]	明治から大正期にかけての政治家であった後藤新平は、日本近代化の先駆者として、医学、政治、経済、外交、文化などの多方面にわたる活躍をしました。岩手で医者をしていた後藤は内務省衛生局長から台湾総督府民政局長となり、植民地経営に手腕をふるいました。1906(明治39)年には南満州鉄道株式会社(満鉄)初代総裁に就任、その後、貴族院議員に勅選され逓信・内務・外務大臣を歴任しました。1920(大正9)年には東京市長に就任して都市改造をめざし、東京市政調査会を創立し、関東大震災後は帝都復興院総裁として都市復興に尽くしました。また、1923(大正12)年には極東駐在ソ連代表Адолф Иоффе(アドルフ・ヨッフエ)を日本に招き、ソ連との国交回復を図りました。  本マイクロには、内務省衛生局長時代、台湾民政官長時代、満鉄総裁時代、逓相時代といった時代ごと、あるいは鉄道広軌関係やヨッフエ交渉関係といった主題ごとに分類された書類のほか、政治家・医学関係者・官僚との書簡、自筆原稿などが収録されています。	政治・外交/日本/明治/大正	{付録}『後藤新平文書目録』(YA@521@Index)(3階マイクロ索引)		35mm
YA@591	郡誌マイクロ版集成	1	215巻	宮地正人編集	東京: 丸善, 2000.	明治の末年から大正・昭和にかけて日本各地で発行された『郡誌』477点をマイクロ版にて集成したものです。  「群誌」とは一群(郡=地方行政単位)を対象とし、その地理と歴史を統合して記述した地誌の一種です。  明治以降の中央集権国家において中央行政の末端として機能し、地域民衆における共同体を形成した「郡」の歴史、自然、文化の全てが収められており近代史研究はもとより経済史、行政史、交通史、社会史、教育史、民俗学、方言などの研究者にとって史料の原点に位置するものといえます。リールは地域ごとに8つにわかれています。	歴史/日本/大正-昭和/風俗・文化/日本/大正-昭和	・ {付録}目録(YA@591@Guide)(3階マイクロ索引)		16mm ・NDLデジタルコレクションで一部公開 https://dl.ndl.go.jp/
YA@582	郡是・町村是資料マイクロ版集成: 一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター所蔵	1	105巻	一橋大学経済研究所 日本経済統計情報センター  一橋大学経済研究所附属日本経済統計情報センター所蔵	東京: 丸善, [199-]	明治20年代から大正にかけて、在来・地方産業の振興をめざして、全国各郡、町、村で現状を調査して将来目標を定め、そのための施策を纏めた資料。郡是・市町村是とは、行政単位としての郡市町村、ないしその地域の指導者たちが中心となってまとめた社会・経済各方面にわたる到達目標のことです。その作成時期は様々であり、明治20年代末から昭和の初めにまで及びます。内容的にも、時代や地域により異なる部分が大きくなりますが、多くの場合、地域の現状を数値データや文章で示す部分(「現況の部」「参考の部」などと題される)と、これを基に計画を述べる部分(「将来の部」などと題される)とを含んでいます。『マイクロ版集成』には1116点が収録され、地域的には福岡県が最も多く207点、これに新潟県の172点、島根県の121点、茨城県の97点などが続いています。郡是・市町村是は、経済史をはじめとする歴史関係の分野のみならず、民俗学、地理学その他、さまざまな分野で活用できる資料といえます。	歴史/日本/明治:歴史/日本/大正:産業/日本/明治:産業/日本/大正:統計/日本/明治	・ {付録}『「郡是・町村是資料マイクロ版集成」目録・解題』(3階マイクロ索引)		16mm
YA@573	花房義質関係文書: 東京都立大学付属図書館所蔵: マイクロフィルム版	1	12リール(第1期)+11(第2期)	首都大学東京図書館(旧: 東京都立大学付属図書館)所蔵 岩壁義光, 広瀬順皓, 堀口修編修	東京: 北泉社, 1996.	明治初期に外交官として各国へ派遣され、特に朝鮮に7回奉使した花房義質関係の資料です。  花房義質宛書簡が多くをしめしますが、その他朝鮮に公使として駐在し、開港交渉に当たった明治中期の外交記録も含まれており、明治初期の外交関係、日朝関係を研究する際に重要な資料といえるでしょう。  当マイクロは首都大学東京図書館(旧: 東京都立大学付属図書館)所蔵資料をマイクロ化したものです。目録は、同図書館より昭和54年に刊行された『花房義質関係文書目録』と『花房義質関係文書(第二期)仮目録』があります。	政治・外交/日本/明治:歴史/東アジア/19世紀	{付録}『花房義質関係文書』(YA@573@ID-1), 『花房義質関係文書目録』昭和54年.(RA@029.9@H7@1,PL@1A@328)。	シリーズ名:明治初期政治史料集成; 6	
YA@577	花井卓蔵文書: 慶応義塾図書館蔵: マイクロフィルム版	1	40巻	慶応義塾図書館所蔵	東京: 慶応義塾図書館, 1999.	明治後期から大正期および昭和戦前期にかけてわが国に展開した近代法制の再編期を物語る資料。  花井卓蔵(1868-1931)は、日比谷焼討事件、大逆事件などを担当した刑事弁護士として名高い人物です。また、一方では、衆議院、貴族院において立案・立法者として議会でも活動していました。法律取調委員会、臨時法制審議会、法制審議会といった政府の諮問機関の一員として法制度の制定・改正などの立案立法事業に一貫して参加しており、彼の残した資料には綿密な書入れが見受けられるものが多くあります。本文書は、戦前期の日本の立法史の再構築を行い、戦後日本の諸立法改革の原点を探るために十分といえる、歴史的価値のある資料です。なお慶応義塾図書館所蔵の原資料については貴重書扱い、限定公開となります。	法律・判例/日本/明治:法律・判例/日本/大正:法律・判例/日本/昭和:歴史/日本/明治:歴史/日本/大正:歴史/日本/昭和	・ {付録}『花井卓蔵文書目録: 慶応義塾図書館蔵』(3階マイクロ索引) YA@577@Guide  ・ {付録}『花井卓蔵文書(リール別索引)』(3階マイクロ索引) YA@577@1-40		
YA@569	八田嘉明文書	1	42巻	早稲田大学大学史資料センター所蔵	東京: 雄松堂, 1995.	八田嘉明(1879-1964)は、明治36年に東京帝国大学土木工学科卒業後、鉄道マンとして勤務しました。1921(大正10)年建設局路線調査課長、1923(大正12)年鉄道省建設局長、1926(昭和1)年鉄道次官となり、1929(昭和4)年退官。その後、貴族院議員となり1932(昭和7)年満鉄副総裁、1937(昭和12)年東北興業総裁。1938(昭和13)年拓務大臣、1939(昭和14)年商工兼拓務大臣、1939(昭和14)年10月東京および日本商工会議所会頭、1941(昭和16)年鉄道大臣、1943(昭和18)年運輸通信大臣と要職を歴任しました。戦後は1953(昭和28)年拓殖大学第9代総長や日本科学振興財団会長等のほか広く実業会で活躍しました。  当マイクロフィルムは、満鉄副総裁就任～昭和20年の文書資料です。多くは満鉄・大陸経営に関わる文書で、三分の一以上が満鉄関係史料であり、社内の業務全般を執りしめる職責にあった八田の書き込み入りの文書も多数含まれています。昭和期の日本の大陸経営を知るための基本史料であるといえます。	政治・外交/日本/昭和	・ {付録}『八田嘉明文書総目録』(YA@569@Guide)		

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@561	百家系図 (諸家系図史料集)	1	6リール	静嘉堂文庫	東京: 雄松堂, 1975	系図学者鈴木真年(1831-1894)撰写による同名の資料を複製したもので、オリジナルの資料は静嘉堂文庫に所蔵されています。鈴木真年は学者として生計を立てていたのではなく、紀州藩士だった時代に国学を平田鉄胤から、系譜学を栗原信充から学び、個人で系譜収集・研究をしていました。弾正台、宮内省、司法省、大蔵省、陸軍省、東京帝国大学などに歴任し、帝国大学勤務の4年間は『大日本編年史』の編纂にもあたっていました。真年の編纂、収集した系図は静嘉堂文庫以外にも国立国会図書館、西尾市立図書館岩瀬文庫、東京大学史料編纂所、筑波大学附属図書館などに所蔵されています。明治26年の記事が確認できる最後の年紀であることから、真年が死去する前年の明治26年に成立したと思われます。  『古代氏族系譜集成』(宝賀寿男編著 1986.全3冊 A@288.2@H2@1-1~3)所収の古代氏族系図には、本資料からも多くが採録されています。	歴史/日本/江戸以前:歴史/日本/明治	(付録)『マイクロフィルム版「諸家系図史料集」解題目録』(YA@561-564@INDEX)(3階マイクロ索引) http://myrp.maruzen.co.jp/wp-content/uploads/ysd_a_gc1615_li_syo_kakeizu.pdf	諸家系図史料集には他に以下の編が刊行されています ・『諸家系図纂』(YA@562) ・『諸系譜』(YA@563) ・『改選諸家系譜』(YA@564)	
YA@531	今西博士蒐集朝鮮本:天理図書館所蔵	1	154	天理大学附属天理図書館	東京: 雄松堂, [19--]	『新羅史研究』『高麗史研究』などで知られる昭和期の朝鮮史学者、今西龍(1875-1932)が収集した史料。『三国史記』『三国遺事』などの史書のほか『大韓疆域考』などの地誌、その他諸記録・日記を含んでいます。	歴史/韓国	・(付録)目録(YA@531@Index)		
YA@371	井上毅文書	1	94巻	国学院大学図書館(編)	東京: 雄松堂, 1969	井上毅(号:梧陰)は明治期の官僚・政治家です。漢籍と西洋法制の両面に通じ、明治初期の法制・文教に関わる重要政策の立案に指導的役割を果たしました。  井上は明治新政府成立後に司法省に入り、渡欧調査団の一員として主にフランスで司法を学びました。帰国後は大久保利通、岩倉具視、伊藤博文らの信任を得、明治十四年の政変の折には参謀として活躍し、ロシア流欽定憲法構想の採用を実現しました。その後は大日本帝国憲法や教育勅語の起草に尽力し、法制局長官・枢密院書記官長・枢密顧問館を歴任、第2次伊藤内閣では文部大臣を務めました。  井上毅の旧蔵書「梧陰文庫」は、昭和32年(1957)に井上家より国学院大学図書館に寄託(のちに寄贈)されました。原資料は旧蔵文書と770部の旧蔵書から成りますが、本資料では文書のみ5,594点をマイクロフィルム化しており、以下のように分類して収録しています。内容は憲法関係と教育関係を中核に、外交、行政・自治、社寺・宗教、理財・財政等、広範な分野に及びます。  秘庫之部(リール1~17) ...井上毅自身が特に重要とした記録文書・草稿類 袋入之部(リール18~73) ...執務参考資料とした記録文書類 冊子之部(リール74~91) ...御雇外国人との答議資料、参照資料類 梧陰先生自筆草稿類(リール92~94) ...肥後熊本藩時代の学習草稿類	政治・外交/日本/明治:法律・判例/日本/明治:教育/日本/明治	・(付録)『梧陰文庫井上毅文書リール編成目録』(YA@371@Index)(3階マイクロ索引)	・国学院大学日本文化研究所編.2005年.『梧陰文庫総目録』東京:東京大学出版会.(A@029.9@Ko2@1)	35mm
YA@560	井上匡四郎文書:国学院大学図書館所蔵	1		国学院大学図書館	東京: 雄松堂書店, [19--?]	国学院大学図書館が所蔵する井上匡四郎の旧蔵書。匡四郎は井上毅の養子。東京帝国大学を卒業後、帝国大学工科大学教員を経て、貴族院議員となり、製鉄業調査会委員、レンジ西伯利亞経済援助委員会、南満州鉄道(株)撫順炭坑長兼鞍山製鉄所長などを歴任、大正14(1925)年海軍政務次官、同15年若槻礼次郎内閣の鉄道大臣を勤め、また昭和2(1930)年の国際連盟総会の日本代表も勤めました。この文書には井上の書翰・日記や、鉱山・鉱業関係資料(撫順炭鉱、鞍山製鉄所他)、貴族院関係資料が含まれます。	産業/日本/大正:産業/日本/昭和	・『井上匡四郎文書目録』(YA@560@INDEX)(3階マイクロ索引)  ・(付録)リール別索引(3階マイクロ索引)		
YA@575	入江俊郎関係文書	1	54巻	国立国会図書館	埼玉: 書肆澤井, 1997.	入江俊郎は、法制官僚として日本国憲法制定作業に終始直接関与していた人物です。当マイクロでは、憲法制定とその後の法令整備に関する資料が大部分を占めています。日本国憲法制定の経緯を知る上で欠かせない資料です。	政治・外交/日本/昭和:法律・判例/日本/昭和	・入江俊郎関係文書目録コピー版(YA@575@INDEX)(3階マイクロ索引)	『入江俊郎関係文書』 https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/irietoshio.php(2018年11月29日) 『国立国会図書館 入江俊郎「憲法改正経過手記」1946年1月~5月 http://www.ndl.go.jp/constitution/library/06/144bunshoko.html(2018年11月29日)  渡辺恭子「日本国憲法制定過程と入江俊郎・佐藤達夫文書」 『参考書誌研究』第26号1983.3 p.72-74(3階和雑誌)  佐藤達夫著・佐藤功補訂『日本国憲法成立史』第4巻 1994.7 p.1033-1034(A@323.1@S12@1-4)	
YA@590	石川一郎文書:東京大学経済学部所蔵	1	279巻	東京大学経済学部編集  経済団体連合会	東京: 雄松堂, 2000-2001.	「石川一郎」は初代の経営団体連合会会長として戦後の復興期の財界をリードした人物の1人です。1940年ころから、会長を辞任する1956年までにファイルされた関係機関・組織の文書類を集めた資料です。彼が関係した多岐に渡る会議録を始め、政府機関や諸団体、企業などとの対応記録・財界活動記録が収録されており産業史、経済政策史の研究にとって第一級の資料となっています。	経済・経営/日本/昭和:産業/日本/昭和	・(付録)『リール別収録概要目録』(YA@590@Guide)(3階マイクロ索引)  ・『東京大学経済学部石川一郎文書目録』http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/?page_id=1910(2018年11月29日)		その他のタイトル = 石川一郎文書
YA@557	岩倉使節団文書:国立公文書館所蔵	1	27巻	国立公文書館	東京: ゆまに書房, 1994.	岩倉遣欧使節団の公式記録。使節団と政府との確執が窺える往復書簡「公信」、日本近代化のモデルを求め各国で視察、聴取した文物、技術、制度の記録である「理事功程」、滞在中の人事に関する諸案件の記録「雑務書類」など多様な資料を含んでいます。使節団には後に明治国家建設に活躍する人物が多く加わっており、政治外交史ばかりでなくあらゆる分野の近代化研究に多くの示唆を与える資料です。(ゆまに書房マイクロフィルムセレクションより)	政治・外交/日本/明治	・(付録)解説・目録・解題(YA@557@INDEX)(3階マイクロ索引)		
MFA@13	Japanese books in The British Library printed before 1700	2	1571 microfiches	The British Library	東京: 本の友社, 1996.2-	英国の大英図書館が所蔵する日本の1700年以前の古写本、版本を収録したコレクション。ドイツ人医師のケンベル(Engelbert Kaempfer 1651-1716)、シーボルト(Philip Franz von Siebold, 1796-1866)、英国で日本学の基礎を築いたといわれる外交官サトウ(Sir Ernest Satow, 1843-1929)らの収集資料を含みます。	文学・語学/日本/18世紀	・(付録)『大英図書館蔵日本古版本集成目録』(MFA@13@1@Guide-1~MFA@13@2@Guide-8)(3階マイクロ索引)	・川瀬一馬・岡崎久司編 1996 『大英図書館所蔵和漢書總目録』東京:講談社 (RA@029.133@Br1@1)	

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@528	児童教育史資料集成: 唐沢富太郎所蔵	1	70 reels		東京:ナダ書房, [1985-1986]	この資料は、唐沢富太郎が収集した寺子屋から近代にかけての教育に関する資料をマイクロフィルム化したものです。  唐沢富太郎は日本教育学・教育史学者で、長年にわたり全国各地をめぐりフィールドワークを行いました。その際収集した、寺子屋の絵や折手本、教科書、通知簿、卒業証明書など児童教育に関する資料がそのままのかたちで約35,000カット収録されています。小学校設立文書・就学関係文書・掛図・高野辰之文書など、はじめて公開されるものもあります。  第1輯と第2輯(各35リール)に分かれており、第1輯には江戸時代の寺子屋の様子から学制頒布(明治5年)後の近代学校の成立に関する資料が、第2輯には明治20年から昭和期にかけての近代教育制度の展開に関する資料が収録されています。	教育/日本/明治:歴史/日本/明治:教育/日本/江戸以前	(付録)『唐沢富太郎所蔵マイクロフィルム版解題児童教育史資料集成Ⅰ・Ⅱ』(YA@528)(3階マイクロ索引)	唐沢富太郎著.1989-.『唐沢富太郎著作集』東京:ぎょうせい.(PDA@370.8@K11@1-)	
YN@5@	時事新報	0			[東京]:日本マイクロ写真, 1963-	福澤諭吉は世に言う三大事業を興しました。慶應義塾の創設、日本初の社交倶楽部「交詢社」の創設、そして新聞『時事新報』の創刊です。『時事新報』は明治15年(1882)3月1日に創刊されました。国会開設前夜にあたる当時、日本ジャーナリズムは黎明期にあり、大小様々な新聞が論戦を展開していました。いずれの新聞にも政党の息がかかった「政党機関紙時代」の中にあつて、『時事新報』は不偏不党を当初から貫いた稀有な存在です。僅か1500部余りの発行部数で発足した『時事新報』は、政党臭の強い従来の新聞にうんざりしていた民衆に歓迎され、2年後の明治17年には5000を超える読者を獲得します。そして相次ぐ検閲や資金難にあえぎながらも、義塾創設時の門下生たちは福澤諭吉の信念通り、責任感に裏付けられた言論の自由を実現し、『時事新報』は「日本一の新聞」と高い評価をもって受け入れられました。このマイクロには創刊から昭和30年(1955)10月31日(なお時事新報は昭和11年12月26日～昭和17年12月31日は「東京日日新聞」に、昭和18年1月1日～昭和20年12月31日は「毎日新聞 東京」に合併、昭和30年11月1日から「産業経済新聞 東京」と合併されています。	雑誌・新聞/日本/明治			龍溪書舎発行の復刻版(1<1882>-7608<1904>)も3階新聞棚にあり
YA@564	改選諸家系譜(諸家系図史料集)	1	18リール	国立国会図書館	東京:雄松堂, 1975	本マイクロフィルムは国立国会図書館所蔵の江戸時代初期、中期に編纂された諸家系図の集成である『改選諸家系譜』(目録2冊と前編32冊、後編200冊、続編250冊の計484冊)の複製です。巻首に押されている「教授館図書」という印から、旧高知藩校の蔵書であることが分かっています。  国立国会図書館には教授館旧蔵本が別に1本所蔵されています。その序文によると、慶長・元和の頃松下重長(関翠軒)が著した「諸家系譜」をもとに、藤田子家が「参州松平家譜」などを参考に増補して「改選諸家系譜」前編数十巻を編纂したもので、それから後編が編纂され合わせて百余巻となり、藤田の師である青山隠士平一鷗が享保5年(1720)初冬に序文を書いたものである、ということがわかります。  内容構成は以下のようになっています。 前編(リール1-2) 徳川将軍家、御三家および松平氏諸家 後編(リール3-11) 前田氏以下の諸大名 続編(リール12-18) 旗本などの幕臣  国立国会図書館所蔵別本や、内閣文庫所蔵本とはそれぞれ記載内容が異なっている部分があります。	歴史/日本/江戸以前	(付録)『マイクロフィルム版「諸家系図史料集」解題目録』(YA@561-564@INDEX)(3階マイクロ索引)	諸家系図史料集には他に以下の編が刊行されています ・『百家系図』(YA@561@1~) ・『諸家系図纂』(YA@562@1~) ・『諸家系譜』(YA@563@1~)	
YA@76	寛永諸家系図伝	1	20巻	内閣文庫所蔵 林道春編	東京:雄松堂マイクロフィルム出版, 1964.	「寛永諸家系図伝」は寛永年間に江戸幕府の命を受け、林羅山を中心として編纂された本格的な武家の系譜で、仮名本・真名本各186冊からなります。内容は清和源氏、平氏、藤原氏、諸氏の四類に分ち、それぞれ系統に従って各家を列次し、ほかに医者、同朋、茶道の部はその姓氏にかかわらず巻末にまとめています。このマイクロフィルムは内閣文庫に所蔵する献上された仮名本を収録するものです。真名本(重要文化財)は日光東照宮に所蔵されています。なお両本の活字本は続群書類従完成会より刊行済で慶應義塾図書館にも所蔵しています。	歴史/日本/江戸以前	『寛永諸家系図伝目録』(YA@76@Guide)(3階マイクロ索引)	・活字本『寛永諸家系図伝』日光東照宮社務所編纂、続群書類従完成会発売,1989-1991(A@288.2@N2@1-)  ・『寛永諸家系図伝』太田資宗ほか編、続群書類従完成会、1980-1997(A@288.2@OC3@1-.GS@5A@94@1-)	
YA@596	関東庁警務局資料	1	80巻	後藤総一郎監修 明治大学図書館所蔵	東京:日本図書センター, 紀伊国屋書店, 2001.	本史料は、1928年(昭和3年)から1933(昭和8年)までの六年間にわたって、関東庁警務局において取り扱われ記録され綴られた史料、合計1872点を収めたものです。この時期は、日本が中国東北部に進出し「満州事変」を経て「満州国」を建国する前後の時代であり、極秘資料も含むという点で本資料は貴重なものと言えます。  資料の内訳は、警務局の一般業務・思想統制・麻薬・児童売買・「在満鮮人」・抗日運動ほかの調査・取締り・報告・統計書全般にわたっています。	政治・外交/日本/昭和:社会思想・社会問題/日本/昭和	・(付録)目録『関東庁警務局資料』別冊(解説・目録)(YA@596@Guide)(3階マイクロ索引)		
YA@518	慶應義塾大学所蔵村上義一文書	1	18巻	佐藤元英, 波多野澄雄 [編]  慶應義塾図書館	東京:雄松堂出版, 2002.10.	昭和初期の政治家・実業家であった村上義一が、南満州鉄道株式会社(満鉄)の理事を勤めた昭和5年7月から昭和9年7月までに入手した文書類を収集したものです。  文書の構成は主に鉄道部所管の政策立案書類、調査報告書、意見書、書簡、電報などからなり、満鉄の社業に関わる資料はもとより、関東軍特務部、経済調査会関係記録から閣議決定記録に至るまで多岐にわたり収録され、日本近代法再編期の植民地政策研究、外交史、経済史全般に深く関わる資料です。  大きく主題に分けると以下のような資料が含まれます。 (1)事変前の満蒙鉄道問題に関するもの (2)事変の展開に応じた既成鉄道の処置、新線建設など満鉄の協力に関するもの (3)満州国建国に伴う鉄道等交通機関の委託経営並びに建設に関するもの (4)満鉄改組(改造)問題に関するもの (5)北満鉄道譲渡問題に関するもの  いずれも当時満鉄が直面した大きな問題ですが、特に(3)が本文書の柱となっています。また(4)は当時満鉄の屋台骨を揺さぶり、国策レベルにまで発展した問題でしたが、高度な政治性を帯びていたため、公刊記録はもとより内貌資料がほとんど存在せず、本文書収録資料から満鉄中枢の動きをある程度捉えることができるという点で、非常に重要です。  収録は年代順(昭和4年以前～昭和9年)で、図表・統計類、補遺や雑文書、地図なども含まれます。	経済・経営/日本/昭和:歴史/日本/昭和:政治・外交/日本/昭和:国防・軍事/日本/昭和	(付録)『慶應義塾図書館所蔵村上義一文書 収録文書目録』(YA@518@Guide)(3階マイクロ索引)	・『山崎元幹満鉄関係資料』(YA@612) ・『美濃部洋次文書』(YA@556) ・『八田嘉明文書』(YA@569)	原本の利用は制限されており、照合の必要がある場合のみ利用可能です。利用方法は貴重書に準じますので、メインカウンターにてお申し込みください。

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@558	憲政史編纂会収集文書	1	215 reels	国立国会図書館 閲覧部政治法制 参考室憲政資料 室	埼玉県:書肆澤井 東京:雄松堂(発売) [199-]	国立国会図書館憲政資料室が所蔵する憲政史編纂会および国会図書館が収集した明治憲政史に関する資料郡をマイクロしたものです。明治憲法明治憲法草案類、国会開設関係資料、地方制度関係資料、日清戦争等の外交問題主要事件資料、伊藤博文・伊東巳代治・井上馨・植木枝盛等の各関係資料を含みます。	政治・外交/日本/ 明治	・(付録)第4期頒布仮収録目録 (YA@558@Guide4)(3階マイクロ索引)  ・国立国会図書館[1960]『憲政史編纂会収集文書目録第一』 (A@210.6@K2@1) ・憲政史編纂会収集文書目録第一、第二 (国立国会図書館デジタルコレクション(図書館送信参加館限定))	・国立国会図書館『リサーチ・ナビ:憲政史編纂会収集文書』 <a href="https://nnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/kenseishihennsannkaishuushuumo">https://nnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/kenseishihennsannkaishuushuumo</a> nnjo.php(2018年12月24日)	第4期のみを所蔵
YA@496	近世法制史料集	1	138巻	内閣文庫(現・国立公文書館)	東京:雄松堂フィルム出版, 1967.2	内閣文庫は、江戸幕府から継承した蔵書に明治政府が収集した資料を加えた和漢の古典籍・古文書を中心としたコレクションであり、本史料集にも昌平坂学問所や内務省の旧蔵書が数多く含まれます。本史料集の編集・刊行後の昭和46(1971)年、国立公文書館が設置されました。内閣文庫の資料は移管され、現在は国立公文書館にて保存・利用されています。  本資料には、内閣文庫所蔵の近世法制史料のうち重要なものを、以下のように分類して収録しています。 1. 法令編 ... 下記の諸編に分類しきれない幕府の一般的な法令 2. 判例編 ... 評定所に関する記録 3. 寺社奉行編 ... 寺社奉行に関する記録 4. 町奉行編 ... 町奉行に関する記録 5. 勘定奉行編 ... 勘定奉行に関する記録 6. 遠国奉行編 ... 遠国奉行に関する記録 7. 附札集等編 ... 附札に関する記録(各奉行混在) 8. 武家方編 ... 上記の諸編が主に庶民の支配に関するものであるのに対し、武士を対象とするもの  なお、付録『近世法制資料解説』の巻末にリール別索引がありますが、以下のように、実際の収録内容と一部異なっています。付録の冒頭に訂正済のリール別索引一覧がありますので、そちらをご覧ください。 《付録》全138リール Reel.39～46 御仕置例類集続類集 Reel.47～57 諸処刑調書 Reel.58 諸出入裁許証文留、徳鄰蔽秘録 《実際》全130リール Reel.39～49 御仕置例類集続類集 (※諸処刑調書は収録なし) Reel.50 諸出入裁許証文留、徳鄰蔽秘録 Reel.51以降 収録史料が8リールずつ繰上がり	法律・判例/日本/ 江戸以前:政治・外交/日本/江戸以前	・(付録)石井良助著『近世法制史料集解説』(YA@496@Guide)(3階マイクロ索引)		
YA@566	公文別録: 国立公文書館所蔵	1	124巻	我部政男, 広瀬順 皓監修 国立公文書館	東京:ゆまに書房, 1995.6-2001.4	「公文別録」は、明治維新以降の政府機関が関わる機密事項や諸事件の文書、多くの書簡等を収録しています。「公文録」(官庁間の伺・指令・下問・掛合)、「公文類聚」(内閣の公文書)、「公文雑纂」(公文類聚に収録した以外の内閣で授受した文書)等とともに日本近代政治史料の根幹をなす史料です。このコレクションは国立公文書館に所蔵される「公文別録」をマイクロ化するとともに、詳細な目録を付しています。	政治・外交/東アジア/19世紀:政治・外交/東アジア/20世紀:歴史/日本/明治:歴史/日本/大正:歴史/日本/昭和:政治・外交/日本/明治:政治・外交/日本/大正:政治・外交/日本/昭和	・(付録)別冊総目録 上中下、追録 (YA@566@Guide-1~4)		
YA@527	稿本三井家史料	1	26巻	財団法人三井文庫	東京:雄松堂フィルム出版, 1962.9	三井家は近世前期からの豪商として古い歴史をもち、第二次世界大戦前には日本最大の財閥を形成していました。先祖は近江六角佐々木氏の家臣といわれていますが、佐々木氏没落後に伊勢に移り、三井越後守高安の子である則兵衛高俊の代に、松坂で質屋・酒屋を始めました。高俊の妻の殊法(しゅうほう)は商才に富み、商家としての三井家の実際の創業者とされています。長男である三郎左衛門俊次は、江戸へ出て呉服商として成功しました。  末弟の高利は、兄の店を手伝った後に松坂に戻って独立し、金融業を営んでいましたが、兄の没後に江戸で呉服店「越後屋」を開業しました。その後、「現銀安売無掛値」の革新商法をかかげて両替店を創設し、幕府の公金為替の引受などによって急激に繁栄しました。  高利は遺言で子息たちに遺産配分を定めるとともに、分割を行わないことを強く希望しました。家政と営業を統轄する機関としての「大元方(おおもとかた)」設置(1710)と、2代目高平の遺書「宗竺遺書書」(1722)によって、「本家六軒、連家三軒、合九軒」という高利の遺志をついだ同族共同経営の制度が固められました。後に長井家と家原家が加わって「三井十一家」と称され、この制度は第二次大戦後の財閥解体まで維持されました。  三井家初代の没後300年供養に向け、1903(明治36)年に「三井家史及び事業編纂室」(現・三井文庫)が創設されました。江戸時代の京都の総本家をはじめ、江戸本店、大阪本店、京両替店、江戸両替店や、松坂の蔵の中にあつた家祖以来の資料がすべて日本橋に運ばれ、6年がかりで『稿本三井家史料』(全84巻)としてまとめられました。各家に届けられた三井家史料は門外不出として陽の目を浴びることがありませんでしたが、1960年以降、財団法人三井文庫として史料の整理・公開がはじまり、本マイクロフィルムも製作されました。三井家の活動状況を知る上で貴重な記録です。  なお、『高陸日記』(リール26に収録)の著者である三井高陸は鳥居坂家の四代目で、本居宣長と親交があったことで知られています。  リール別の内容は以下の通りです。 遠祖(リール1) 北家(リール2～5) 伊皿子家(リール6～7) 新町家(リール8～10)	歴史/日本/江戸以前:歴史/日本/明治	(付録)『稿本 三井家史料目録』 (YA@527@Guide)(3階マイクロ索引)		35mm

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@601	工鉱業関係会社報告書: 占領初期実態調査	1	50リール	東京大学経済学部図書館	東京: 雄松堂出版, 2003.	東京大学経済学部図書館が所蔵する「工鉱業関係会社報告書」のマイクロ版で、2,272社分を収録しています。「工鉱業関係会社報告書」は、1945年9月19日に連合軍最高司令官事務所経済科学課長(Colonel, GSC/Chief, Economic & Scientific Section)のクレーマー(R.C.KRAMER)大佐名で、名称、創立時期、貸借対照表、債権を有する個人・会社名、株主数、生産額、工場の設備状況、原料などの9項目にわたる報告書を「事業総額」100万円以上の工鉱業関係の企業に対して提出することが求められ、その際に作成された報告書です。2000年までは東洋経済新報社の調査部が保存されていましたが、同年、東京大学経済学部図書室へ寄贈されました。	経済・経営/日本/昭和	・(付録)『マイクロフィルム版 占領初期実態調査 工鉱業関係会社報告書総目録』(YA@601@Guide)		
YN@92@1-	国立公文書館所蔵明治・大正・昭和官員録・職員録集成	1	138巻	国立公文書館	東京: 日本図書センター, 1990	本集成は、国立公文書館所蔵の官員録・職員録のうち、中央官庁関係の図書403冊(496点)を収録したものです。  このコレクションでは第1巻～105巻が明治(明治元年から45年)、第106巻～121巻が大正(大正2年から大正15年)、第122巻～138巻が昭和(昭和2年から昭和14年)を収録しています。官員録・職員録は毎年刊行されていますので、明治・大正・昭和の三代にわたる、中央官庁関係の官僚・軍人の人事、経歴を通覧でき、日本近代史研究における基礎的資料といえるものです。  国立公文書館デジタルアーカイブ( <a href="https://www.digital.archives.go.jp/">https://www.digital.archives.go.jp/</a> ) 行政文書>内閣・総理府>第5類官員録・職員録 に明治期から昭和期の官員録・職員録が公開されています(2018年12月24日閲覧)。	政治・外交/日本/明治:政治・外交/日本/大正:政治・外交/日本/昭和	・(付録)「国立公文書館所蔵明治大正昭和官員録・職員録集成収録書目」(YN@92@INDEX)(3階マイクロ索引)  ・各リール先頭に内容細目あり	・朝倉治彦編.1981年.『明治初期官員録・職員録集成』東京:柏書房.(RA@317.2@A3@1-1~4)  ・国立国会図書館参考書誌部編.1985年.『官員録・職員録目録: 明治元年-昭和22年 国立国会図書館所蔵』東京:国立国会図書館.(RA@281.03@K3@2)  ・内閣官報局.1886年-.『職員録』東京:内閣官報局.(RA@281.03@Sh1@1-)	・国立公文書館デジタルアーカイブ( <a href="https://www.digital.archives.go.jp/">https://www.digital.archives.go.jp/</a> ) 行政文書>内閣・総理府>第5類官員録・職員録 に明治期から昭和期の官員録・職員録が公開されています(2018年12月24日閲覧)
YA@554	国立国会図書館所蔵明治期刊行図書マイクロ版集成	1		国立国会図書館	東京: 丸善, [1991]-	国立国会図書館が所蔵する明治期に刊行された図書をマイクロ化したものです。慶應義塾図書館では法律部門等の一部を所蔵しています。詳しくは1階レファレンスカウンターにお問い合わせ下さい。また国立国会図書館「近代デジタルライブラリー」( <a href="http://kindai.ndl.go.jp/index.html">http://kindai.ndl.go.jp/index.html</a> )(19 Febryary 2007)でも著作権処理の済んだ明治期刊行の資料全文のデジタル画像が無料で公開されています。	図書/日本/明治	・『国立国会図書館所蔵明治期刊行図書マイクロ版集成Index』(3階マイクロ索引) YA@554@Index1~9)  ・『国立国会図書館所蔵明治期刊行図書マイクロ版集成索引』(CD-ROM) (3階データベースエリア、出納CD-ROM)		
YA@574	国立国会図書館所蔵斎藤実関係文書:書簡の部	1	100リール	国立国会図書館	日本マイクロ写真(制作)(製作者名変更: 日本マイクロ写真→ニチマイ), [19--?]	斎藤實は、明治中期から二・二六事件で斃れるまで、海軍大臣、朝鮮総督、枢密顧問官、内閣総理大臣、内大臣などの重職を歴任した政治家です。  膨大な斎藤実関係文書は、故郷の水沢にある斎藤家書庫や四谷の旧邸などに分散保管されていましたが、1964年に国立国会図書館に寄贈された後、マイクロ化されました。  マイクロは、年代別事項別に分類された「書類の部」(報告書、意見書、斎藤自身による草稿など)と「書簡の部」より構成されていますが、慶應義塾図書館では「書簡の部」を所蔵しています。「書簡の部」では、斎藤実にあてられた書翰が発信者名順に収録されており、目録で各書翰に発信年次、内容摘記が付されています。  近代日本の建設を研究する上で、斎藤実の関わった政治・社会の背景を知ることのできる重要な資料となっています。	政治・外交/日本/明治:政治・外交/日本/大正:政治・外交/日本/昭和	・(付録)『斎藤実関係文書目録 書翰の部一、二』(YA@574@3~4)		その他のタイトル = 斎藤実文書
YA@96	皇明文海	1		細川家永青文庫	東京: 雄松堂マイクロフィルム出版, 1963.	熊本藩主細川家に秘蔵されてきた皇明文海は、明一代の人物を宗室にはじまり、中央および地方官僚・武臣・忠節・直諫・儒林・異流・方外・列女に至る45部門に分ち、2,000余人の伝記資料、約3,600通を収めたもので、大半は、碑文資料となっています。	歴史/中国/近代			35mm
YA@498	校正律例原稿名例. 校正律例. 校正律例図稿	1	1リール	法務図書館	[出版地不明]:[出版者不明], [19--]	「校正律例稿」は明治期の刑法草案のひとつです。  1870(明治6)年の「新律綱領」は明治以降の我が国で初めて公布・施工された刑法典です。しかし、条文ごとに規定を整理し体系化されておらず、雑然としたものでした。この「新律綱領」を条文ごとに整理し、内容的に補充したものが1873(明治6)年の「改定律例」です。しかしながらこの律例も身分制を前提としており、およそ近代的な刑法典とはいえないものでした。  「校正律例稿」は「新律綱領」及び「改定律例」の改正案として、左院刑法課(もしくは法制課)において明治7年に作成されたものと考えられています。正確な成立過程は不明で、確定案も見つかっていません。  本マイクロ資料は、『校正律例稿』と、関連文書の『校正律例原稿名例』『校正律例図稿』を収録しています。いずれも旧司法省所蔵で、現在は法務図書館所蔵です。  「校正律例稿」は近代刑法典へうつりゆく過渡的立法で、「律」の形式を温存し、本質的には東洋法系刑法に属するものでした。また、かなりの部分は綱領や律例の一部改正としてその後実現しました。そのため「校正律例」は実際には施行されずに終わりました。明治政府は完全な西洋刑法の移入に踏み切り、Gustave Emil Boissonade(ギュスターヴ・エミール・ボアソナード)を中心として、フランス刑法を模範とした新刑法(明治15年刑法)編纂事業を開始したのです。	法律・判例/日本/明治		手塚豊.1956年.「校正律例について」『明治初期刑法史の研究』東京: 慶應義塾大学法学研究会. 81-108頁. (A@326.02@T1)  司法省秘書課編.1945年.「校正律例稿」『日本近代刑事法令集中巻』東京: 司法省秘書課. 297-374頁. (18J@184@3)	
YA@134/135	[幸若舞の本 :36種]	1			東京: 慶應義塾図書館, 1968.	慶應義塾図書館所蔵慶長14年写本のマイクロフィルムです。	図書/日本/江戸以前:芸術/日本/江戸以前			

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@553	黒田清隆関係文書:鹿児島県歴史資料センター黎明館所蔵	1	10リール	鹿児島県歴史資料センター黎明館	東京:北泉社, 1993.	<p>第2代内閣総理大臣・黒田清隆に関する文書の集成です。黒田は明治初期には北海道開拓事業に尽力し、一方で長く外交問題にも取り組んだ人物です。明治21年(1888)に成立した黒田内閣は短命に終わりますが、首相辞任後は枢密院議長なども歴任しています。</p> <p>本資料は「書翰の部」(1~3巻)と「書類の部」(4~10巻)からなります。前者は黒田の直筆書翰と、岩倉具視・伊藤博文・榎本武揚・松方正義をはじめとする79名からの来翰(黒田宛ではないもの2通を含む)を収録しています。</p> <p>後者は開拓使関係、黒田内閣、枢密院時代、条約改正関係、朝鮮関係の書類や意見書などであり、多くの電信・電報、探聞書なども含まれています。</p> <p>付属資料の『黒田清隆関係文書』には目録のほか、「解説」と「黒田清隆関係年譜(稿)」も収録されています。</p> <p>なお、原資料は戦後しばらく国立国会図書館憲政資料室に寄託されていた時期があり、その際にも一度マイクロフィルム化されています。その後の数回の配置換えの過程で若干の史料が失われたとみられ、本資料には収録されていないものも含んでいるようですのであわせてご利用ください。(所蔵が確認できるのは同室のみ、現在は冊子複製版での利用となります。)</p>	政治・外交/日本/明治	・(付録)『黒田清隆関係文書』(YA@553@Guide)(3階マイクロ索引)		シリーズ名:明治初期政治史料集成; 3
YA@570	極東国際軍事裁判関係資料集成:国士館大学附属図書館所蔵	1	第1期全161リール	法務省→国士館大学附属図書館	柏書房:紀伊國屋書店[発売], 1994.	<p>国士館大学附属図書館が所蔵する原資料をマイクロフィルムに収録した第一期分です。この資料は昭和45年5月に法務省より譲渡された第一次資料であり、極東軍事裁判の実際を記す価値の高い資料です。第一期分には「英文速記録」(93リール)、「和文証拠資料」(60リール)、「判決及び個別意見(英文)」(8リール)が収録されており、裁判官・検察官・英語系証人の発言についても原文にあたることができます。大量にまとまった資料が分類整理されており、系統的な資料としても信頼できます。</p>	政治・外交/日本/昭和	・(付録)極東国際軍事裁判別冊(YA@570@1@Guide)	<p>・『国立国会図書館 極東委員会、対日理事会、極東国際軍事裁判所』 http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme/constitutional/occupation/fec.html(2005年3月22日)</p> <p>・『極東国際軍事裁判記録:東京大学社会科学研究所所蔵』(RA@329.6@To1@1-1~3)</p> <p>・『極東国際軍事裁判記録』(RA@210.7@A3@1)</p>	監修:奥原敏雄
YA@495	兇徒聚衆被告事件豫審記録	1	1リール		[東京]:[東宝写真工芸],[19--]	<p>明治38(1905)年に起こった「日比谷焼打事件」の関係者が、兇徒聚衆罪で逮捕された際の豫審調書を収録したものです。</p> <p>日露戦争後のポーツマス条約の内容に不満を抱く団体が、東京日比谷公園で講和条約反対国民大会を計画したところ、政府は治安警察法によって公園を封鎖し、大会を禁止しました。これに対し民衆は封鎖を突破して大会を強行し、大会終了後も警官隊と衝突し、国民新聞社、内相官邸や警察署キリスト教会などを打ち壊しました。これが「日比谷焼打事件」です。翌日東京では戒厳令が敷かれ、その後全国に講和反対運動が広がりました。</p> <p>この事件で、河野廣中、山田喜之助、大竹貴一、小川平吉、細野次郎といった政治家をはじめ、300名以上の人が兇徒聚衆罪で起訴されました。</p> <p>本マイクロには以下の資料が収録されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兇徒聚衆被告事件豫審記録 第1-3</li> <li>・兇徒聚衆被告事件豫審終結決定書</li> <li>・判決謄本</li> <li>・兇徒聚衆被告事件別冊目録</li> </ul> <p>国立国会図書館近代デジタルライブラリー(<a href="http://kindai.ndl.go.jp/">http://kindai.ndl.go.jp/</a>)でも全文を見ることができます。</p>	法律・判例/日本/明治		<p>・社会問題資料研究会.1974年.『所謂日比谷焼打事件の研究』京都:東洋文化社.(A@210.6@IC18@1)</p>	<p>ネガフィルム</p> <p>別タイトル:講和問題国民大会兇徒聚衆被告事件豫審記録</p>
YA@599	旧記雑録:東京大学史料編纂所所蔵	1	40リール(全39巻)	東京大学史料編纂所	東京:東京大学出版会;東京:丸善, 2000.	<p>島津家文書は、旧薩摩藩主島津家重代相伝の文書で、時期は平安時代から幕末維新期に及びます。東京大学史料編纂所が所蔵する島津家文書のマイクロ版は1.島津家文書 2.島津家本 3.旧記雑録の三部で構成され、本マイクロは3.旧記雑録にあたります。『大日本古文書』(第16 島津家文書 東京帝国大学文学部史料編纂掛編纂)未収録分も収録されています。</p> <p>『旧記雑録』は別名『薩藩旧記』ともいい、編者の伊地知季及び季通父子による自筆原本で、総計362冊の冊子体の史料集です。平成9年4月に国の重要文化財に指定されています。内容は、島津家文書を中心として、鹿児島地方の中近世史料を広く収集し、おおむね編年に配列し、長久2(1041)年から明治28(1895)年までを収録しています。</p>	歴史/日本/江戸以前:歴史/日本/明治:政治・外交/日本/江戸以前:政治・外交/日本/明治	<p>・(付録)解題(YA@599@Guide)</p> <p>・(付録)索引CD-ROM(YA@598@X)</p>		16mm
YA@198	[明治中期法制諸意見書]	1			東京:慶應義塾図書館, 1968.	<p>慶應義塾図書館所蔵幸田文庫近写本11冊の全巻をマイクロ化したものです。</p>	法律・判例/日本/明治			
YA@488	明治年間府県統計書集成	1	504リール		東京:雄松堂フィルム出版, 1963-[1979].	<p>「府県統計書」とは各都道府県の管轄区域における諸種全般の統計書です。明治6~7年前後の発行当初は、『何々県一覽表』、『何々県治一覽表』と称され、形態も簡易な一枚刷りのものでした。明治16年の内務省「府県統計書様式」布達により全国統一様式が用いられるようになると、分類項目・収録データの充実が図られ、『何々県統計書』として昭和16~17年頃まで刊行されました。戦後の復刊・改称を経て、今日各都道府県により毎年刊行されている『何々県統計年鑑』へと繋がっており、日本を代表する長期・地方統計です。</p> <p>本マイクロ資料は、現在各府県において所在の判明している明治期発行の府県統計書、約2,050冊分を収録したものです。全国統一以前のものは、年ごとや府県ごとで分類項目及び単位地域が違うことがあります。首巻には、参考文献として、次の資料が収録されています。</p> <p>内務省地理局編『郡村異同一覧』(明治14年) 統計寮編『使府藩県概表』(明治8年) 内務省地理局編『地誌撮要』(明治12年) 内務省地理局編『地方要覧』(明治15年) 内務省編『府県統計書様式』(明治17年)</p>	統計/日本/明治	<p>(付録)『明治年間府県統計書集成 解説・収録書総目録』(YA@488@1-Guide)(3階マイクロ索引)</p> <p>(付録)『都道府県統計書集成 総目録』(YA@483,488@Index)(3階マイクロ索引)</p> <p>※『明治年間府県統計書集成』(YA@488)『大正・昭和年間府県統計書集成』(YA@483)『都道府県統計書集成:戦後編』(YA@483@637-956)</p>	<p>・『大正・昭和年間府県統計書集成』(YA@483)</p> <p>・『都道府県統計書集成:戦後編』(YA@483@637-956)</p>	その他のタイトル=Collection of the Statistical Annuals of the Respective Prefectures in Japan for Meiji Era



請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@533	明治初期辞書集成:国立国会図書館所蔵:字類・字解・字引類	1	195リール	国立国会図書館	東京:ナダ書房,1986	本マイクロフィルムは国立国会図書館が所蔵する明治元年から30年までに刊行された字類・字解・字引の集成です。文明開化の時代、当時の人々がどのように語彙や外国語を受け入れようとしていたのか、解釈をしたのかを知ることでできる貴重な資料です。  この資料は以下のように分類され、付録に索引があります。 第1期(50リール):歴史書より編纂された非辞書体辞書 第2期(46リール):地理書より編纂された非辞書体辞書 第3期(50リール):中国古典・修身書より編纂された非辞書体辞書 第4期(49リール):読本・自然科学書より編纂された非辞書体辞書  掲載される資料の多くは近代デジタルライブラリーで見ることができます。(http://kindai.ndl.go.jp/)	文学・語学/日本/明治	・(付録)山田忠雄責任監修『明治初期辞書集成 目録』(YA@533)(3階マイクロ索引)	・山田忠雄著.1981年.『近代国語辞書の歩み:その模倣と創意と』東京:三省堂.(JL@7A@517@1-)	
YA@138	明治前期教育史料集成	1	60リール	矢口 新	東京:雄松堂フィルム出版,1965.6	本資料は、学制公布(明治5年)から教育勅語発布(明治23年)までを中心とした教育史料集成です。中央教育史料(『法規分類大全』や文部省関係諸史料)に加え、地方教育史料(『府県史料』(学事の部)や各府県の学校規則)を収録しています。  本資料は、明治前期における教育発展過程や、中央・地方の格差問題の解明に主眼を置いて編集されています。  個々の史料の多くは、国立国会図書館近代デジタルライブラリー(http://kindai.ndl.go.jp/)で見ることができます。  ■各リールの収録内容 1 法規分類大全 2 学規全書 3-8 文部省日誌 9-15 文部省雑誌 15 文部省教育雑誌 16 文部省報告 17-18 文部省布達(命令)全書 19-28 府県教育法令 29-30 学校規則、学則及教則 31-60 府県史料 学事の部	教育/日本/明治:歴史/日本/明治	・(付録)『明治前期教育史料解説』(YA@138@Guide)(3階マイクロ索引)	・日本近代教育史料研究会編.1994年.『編集復刻日本近代教育史料大系』復刻版.東京:龍溪書舎.(PDA@372.106@Nil@1-)  ・加納正巳.1971年.『教育学関係参考文献総覧』東京:帝国地方行政学会.(RA@370.3@K5@1)  ・佐藤秀夫編.1981年.『明治前期文部省刊行誌集成』東京:歴史文献.(PDA@317.2@S1@1-)	その他のタイトル = Compilation of Documents on the Development of Education of Japan in Early Meiji Era.
YA@592	明治期婦人問題文献集成:国立国会図書館所蔵	1	72リール	国立国会図書館	東京:日本図書センター,1988.	本集成は、国立国会図書館所蔵の婦人関係の文献のうち、明治年間に発行された「婦人問題」に関する図書318点を発行年順に収録したものです。(叢書等一部一括収録)元になったのは、国会図書館参考書誌部編『婦人問題文献目録・図書の部 明治期編』で、8部門に分かれているうちの「婦人問題」該当部分のみを収録してあります。  付録に五十音順の索引が付いており書名と著者名でひく事が出来ます。	図書/日本/明治	・(付録)『明治期婦人問題文献集成収録書目』(YA@592@Guide)(3階マイクロ索引)		その他のタイトル = 明治期婦人問題文献集成収録書目
MFA@12	明治期刊行物集成(JMSTC):文学・言語編	2	2311枚	早稲田大学図書館明治期資料マイクロ化事業委員会編	東京:雄松堂書店,1988-	早稲田大学図書館が所蔵する明治期刊行図書のうち、文学・言語学に関する約8000点を収録しています。また早稲田大学には所蔵されないもの、あるいは異版等についても4800点収録しています。	文学・語学・日本	・(付録)『明治期収録書目』(MFA@12@Index)(3階マイクロ索引)  ・早稲田大学図書館編 1996『明治期刊行物集成 文学言語総目録(JMSTC)』(上・下巻)(A@903@Wa1@1-1,2)  ・雄松堂出版『明治期刊行物集成 文学・言語編 総目録』(CD-ROM)		
YA@556	美濃部洋次文書:東京大学総合図書館所蔵	1	114リール	東京大学総合図書館	東京:雄松堂,1991]	第二次世界大戦下、商工官僚として活躍した美濃部洋次(1900-1953)が収集し、国策研究会に託した資料のため「国策研究会文書」とも呼ばれています。昭和60(1985)年に東京大学総合図書館に収蔵されました。戦時体制下の経済政策および政治史研究の基本史料です。	政治・外交/日本/昭和	・東京大学総合図書館編『国策研究会文書目』(YA@556)(3階マイクロ索引)  ・(付録)『収録文書リール別索引』(YA@556)(3階マイクロ索引)		35mm
YA@494	民法理由書	1	4リール	Gustave Emil Boissonade, 城数馬訳  法務図書館	[東京]:富士ゼロックス(撮影),1976	Gustave Emil Boissonade(ギュスターヴ・エミール・ボアソナード)は、明治政府の法律顧問として日本の近代法体制の形成に大きな貢献をしたフランス人法学者です。  この資料における「民法」とは明治23(1890)年に公布された旧民法のことです。フランス民法典を模範とし、財産法の部分をボアソナードがCode civil de l'empire du Japon : accompagne d'un expose des motifs : traduction officielle (全4巻)として起草しました。第1巻が本文(Text)、第2~4巻が理由書(Exposé des motifs)で、本資料は理由書の翻訳をマイクロ化したものです。翻訳は、城数馬と森順正がボアソナードと協議しながら行いました。  旧民法は日本固有の民俗・風習に合わないといった理由により、公布後に「法典論争」によって批判の対象となり、施行されないまま修正を余儀なくされました。そのため、理由書の翻訳である本資料も長く公刊されませんでした。しかし、ボアソナード民法典は現行の条文や法制度の多くに影響を与えており、現行民法の理解のために重要な資料です。  各リールの収録範囲は以下のとおりです。 (リール1) 財産編物権部1~5、財産編人権部1~3 (リール2) 財産編人権部4~6、財産取得編1~4 (リール3) 財産取得編5~9、財産担保編1~2 (リール4) 財産担保編3、証拠編1~2  その後本資料を含めボワソナード民法典の編纂課程で作成された資料諸草案・諸資料を体系的に整理した『ボワソナード民法典資料集成』全26冊が雄松堂出版より冊子体で刊行されています。解説、目次等もあり実際の利用は冊子体が便利です。	法律・判例/日本/明治		<原典(マイクロ)> Code civil de l'Empire du Japon : accompagne d'un expose des motifs (YB@116)  <原典(冊子体)> Boissonade, Gustave.1891. Code civil de l'empire du Japon : accompagne d'un expose des motifs : traduction officielle Tokio : [Kokubunsha].(J10@127@1~4)  <解説付の復刻版(冊子体)>ボワソナード民法典研究会編.2001年.『民法理由書』東京:雄松堂出版.(A@324.02@Bo1@9-1~5)	

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@120	三菱社誌	1	14リール	三菱合資会社編	東京:三菱経済研究所,[1967]	財団法人三菱経済研究所蔵の『三菱社誌』(出版年不明)のマイクロ版で全36巻、20,104頁を収録しています。  三菱は明治期に岩崎彌太郎が創業し、第二次世界大戦後GHQに解体されるまで三井、住友と並ぶ財閥のひとつでした。  本マイクロは「社誌」という言葉の通り、三菱の会社の歴史(社史)ではなく、旧三菱合資会社および三菱本社の業務記録を編年体で編纂したものです。明治3(1870)年の創業時から昭和27(1952)年の旧本社清算終了までの82年間にわたり収録されています。  社内文書の収集、整理、保存のためとして、組織・規則・人事・財務・事業・生産・営業・災害・訴訟などを対象に編纂されています。  社誌の編纂は大きく3つの時期・編集委員により行われ、若干の編集方法の違いはあるものの、一定の方針に従って記録され残された資料です。  戦前・戦後を通し秘扱資料として三菱内部で保存されていましたが、昭和37年に岩崎弥太郎・弥之助伝記編纂会の許可を得てマイクロ化しました。その後昭和54年から昭和56年に東京大学出版会により復刻版(図書)が出版され、慶応義塾図書館に所蔵していますので、利用はそちらをお勧めします。  リール1:1-4号(M3.10-M9.12) リール2: 5-6号(M10.1-M11.12) リール3: 7-8号(M12.1-M13.12) リール4: 9-11号(M14.1-M16.12) リール5: 12-14号(M17.1-M20.12) リール6: 15-17号(M21.1-M26.12) リール7: 1-3冊(M27.1-M44.12) リール8: 4-6冊(M45.1-T4.12) リール9: 7-8冊(T5.1-T5.12) リール10: 9-10冊(T6.1-T7.12)	経済・経営/日本/明治:経済・経営/日本/大正:経済・経営/日本/昭和	・『三菱社誌:索引』(A@335.48@M1@1)(白楽) ・『三菱社誌 総索引』(GS@4A@370@S)(三田地下3階)	三菱社誌刊行会編.1979-1982『三菱社誌』全41巻.東京:東京大学出版会(GS@4A@370@1~40)	
YA@597	森戸辰男関係文書;片山・芦田政権下「閣議」関係文書;広島大学附属図書館蔵:マイクロ版集成	1	10リール・目録1冊	広島大学付属図書館 小池聖一[編集・監修]	東京:丸善,2000.	広島大学初代学長で文部大臣・中央教育審議会会長等を歴任した森戸辰男氏に関する「森戸辰男関係文書」のうち、片山・芦田内閣期の閣議配布資料(文部省関係を除く)をマイクロ化したものです。閣議議事・各省庁・案件ごとに13項目1436件の文書が収録されています。	政治・外交/日本/昭和:教育/日本/昭和	・(付録)『広島大学付属図書館蔵 森戸辰男関係文書 片山・芦田政権下「閣議」関係文書目録』(A@597@Guide)		16 mm
YA@603@	日偽上海市政府文化、教育、衛生活動	1	60リール	上海市档案馆	上海:上海市档案馆,2002.	日本占領時期(1937年12月~1945年8月)に上海政府が行った文化・教育・衛生活動を把握するのに役立つ、上海市档案馆が所蔵する文献・書類等のマイクロ版です。	風俗・文化/日本/昭和:風俗・文化/中国/現代:教育/日本/昭和:教育/中国/現代			16mm
YA@565	日本の会社史マイクロ版集成	1	293 reels		東京:丸善,[199-]	東証一部上場企業およびそれに準じる大手企業の企業自身の刊行による会社史を収録したマイクロレクションです。収録対象は、日本経営史研究会編『会社史総目録』(1986年)および専門図書館協議会編『社史目録追録』(1992年3月刊行分まで)に収録された上記の社史です。なお、鉄道・電力などの工事史、労働争議史、所有船舶史などの細かい「事件史」や公的企業や旧3公社(NTT、JR、JT、NHKなど)は収録対象外となっています。  慶応義塾図書館では以下の部分を所蔵しています。 グループ3:金属製品(CA)・造船(CB)・鉄鋼(CC) 35リール グループ4:一般機械(DA)・電気機械(DB)・自動車等(DC)・精密機械(DD) 65リール グループ6:鉄道(FA)・海運(FB)・陸運(FC)・航空(FD)・倉庫(FE) 30リール グループ7:他製造(GA)・商業(GB)・不動産(GC) 41リール グループ8:長信為替(HA)・都市銀行(HB)・地方銀行(HC)・信託銀行(HD)・その他金融(HE)・第二地銀(HF)・証券(HG) 97リール グループ9:生保(JA)・損保(JB) 25リール	経済・経営/日本/昭和	・(付録)総合目録巻 [YA@565@Guide](3階マイクロ索引)、[RA@335.48@Ma1@1](1階一般書架)...会社名索引付  ・(付録)1巻Guide号~9巻Guide号 [YA@565@1@Guide~YA@565@9@Guide](3階マイクロ索引)	全440リールのうち、前述の293リールを所蔵。  別タイトル:マイクロ版「日本の会社史」	16 mm
YA@22	日本陸海軍文書抜粋萃	1	164 reels	防衛庁防衛研究所図書館他	Washington D.C.:Library of Congress,1957-	日本帝国陸海軍(旧陸海軍)関係文書類や内務省をはじめとする日本政府機関の文書類は、第二次世界大戦後米国軍によって部分的に押収され、米国立公文書館で管理されていました。このマイクロフィルムはその中から歴史的に貴重とされる資料を選択し、米国議会図書館でマイクロ化したものです。約40万ページに亘る文書は、主に1900年-1945年の間に東アジア地域で生じた諸事件の記録ですが、1900年以前の明治天皇治世期の資料、その他の地域での事件を扱ったものもあり、以下の順に収録されています。  1,海軍一般綴(Navy General Files) 2,海軍事件別綴(Records from Various Navy Topic Files Relating to Particular Incidents) 3,海軍雑綴(Navy Miscellaneous Files) 4,陸軍一般綴(Records from Army General Files) 5,重要事件に関する陸軍地域別綴(Records from Various Army Area Files Relating to Particular Geographic Areas with Each Area Centered About a Significant Event) 6,陸軍事件別綴(Records from Various Army Topic Files Relating to Particular Incidents) 7,陸軍雑綴(Army Miscellaneous Files)、 8,他省・諸機関記録雑纂(Miscellaneous Files-Records from Other Offices and Organizations)  具体的には台湾事件に始まり、日露戦争、朝鮮三・一独立運動(Korean Rebellions)、ハーグ国際平和会議、シベリア出兵、ワシントン会議、軍備縮小会議、柳条湖事件・満州事変、五・一五事件、ノモンハン事件、第二次世界大戦の記録まで、当時は機密書類とされていた日本戦史を研究する上で欠かせない資料が多く含まれています。  現在、日本に返還された原本は防衛庁防衛研究所図書館、国立公文書館、外務所外交資料館などに所蔵され、閲覧・公開のための整備が続けられています。	歴史/日本/明治:歴史/日本/大正:歴史/日本/昭和:政治・外交/東アジア/19世紀:政治・外交/東アジア/20世紀:国防・軍事/日本/明治:国防・軍事/日本/大正:国防・軍事/日本/昭和	・(付録)Young,J.<i>Checklist of Microfilm Reproductions of Selected Archives of the Japanese Army, Navy, and Other Government Agencies, 1868-1945.</i>(YA@22)(3階マイクロ索引)  ※Index巻の内容は上記Checklistと同一。  ※リールNo.1は目次巻(complete table of contents)。	・田中宏巳編.1995年.『占領接收 旧陸海軍資料総目録:米議会図書館蔵』東京:東洋書林.(RA@396.21@T1@1)  ・ Morley, James William.1950. Check List of Seized Japanese Records in the National Archives.<i>The Far Eastern Quarterly</i> 9(3):306-333.	リールNo.94~100,142~200は未刊。  その他のタイトル =Selected Japanese Army & Navy Archives 1868-1945 =Selected Archives of the Japanese Army-Navy 1868-1945 =旧陸海軍関係文書  容器記載のタイトル=Japanese Army-Navy Archives

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note	
YA@595	日本林制史調査資料	1	322巻		東京: 雄松堂書店	この資料は、農林省山林局が「日本林政史資料」(全30巻)を編集刊行するにあたり、わが国林制の沿革に関する史料を全国にわたって採訪調査した際の一大成果と言えるものです。この調査事業は、関東大震災直後の大正13年から昭和9年までの間継続して施行されたもので、それ以前の調査とは比較にならないほど大規模な調査・収集事業でした。  また、一見林野制度とは直結しないような行・財政史料から税制、農政、水利、土木に至るいわゆる地方史料を豊富に取り入れている点でも他の資料と著しく異なっています。付属資料の「日本林制史調査資料総目録」(1971年刊)は図書としても所蔵しています。	産業/日本/江戸以前-明治	・(付録)「日本林制史調査資料総目録」(YA@595@Guide)(3階マイクロ索引)			
YA@594	日本社会労働運動資料集成: 協議会史料	1	114リール(第1期)62リール(第2期)	協議会研究会 法政大学大原社会問題研究所	東京: 柏書房, 2000-2002.	1919年の設立以来社会政策社会運動の調査研究、政策提言、労働争議の仲裁・和解など多岐にわたって活動し、調査研究資料を残した協議会は、常務理事が交代した1931年を境に第1期、第2期を区分されます。本資料は、大正期から昭和戦前期までの労働運動、日本社会の動態観察、動向測定などの争議・紛議報告を中心としており、日本社会を研究するうえで不可欠となる一次資料です。	労働/日本/大正:労働/日本/昭和:社会思想・社会問題/日本/大正:社会思想・社会問題/日本/昭和	・別冊:収録資料一覧 検索用CD-ROM			
YA@576	農商務省小作慣行調査報告	1	480巻	東京大学農学部図書館所蔵	東京: 日本図書センター, 1996.	『大正10年小作慣行調査』のうち東京大学農学部図書館が保管する郡調査書ならびに町村調査書を複製したものです。今回複製された『大正10年小作慣行調査』は、調査項目が最も詳細というだけでなく、町村調査を基礎として、郡調査、道府県調査、全国調査と順に積み上げていく調査手法が採用された点に大きな特徴を持っています。そして、質・量共に最も充実した内容を持つものとの評価を受けています。郡調査書と町村調査書については、これまで刊行の計画がありながらも、文書量の膨大さ等の理由から見送られていたもので、今回の複製によりその全貌が初めて明らかにされたといえます。	歴史/日本/大正:産業/日本/大正	・(付録)『農商務省小作慣行調査報告 解説/収録町村一覧<関東編><近畿編>』(3階マイクロ索引)YA@576@Guide-1  ・(付録)『農商務省小作慣行調査報告 解説/収録町村一覧<東北編><九州編>』(3階マイクロ索引)YA@576@Guide-2  ・(付録)『農商務省小作慣行調査報告 解説/収録町村一覧<中部編1><中部編2>』(3階マイクロ索引)YA@576@Guide-3  ・(付録)『農商務省小作慣行調査報告 解説/収録町村一覧<中部編3><中国・四国編>』(3階マイクロ索引)YA@576@Guide-4			
YA@555	御番方代々記: 国立公文書館内閣文庫所蔵	1		国立公文書館内閣文庫	東京: 雄松堂書店	江戸幕府の初期、古くは天正12(1584)年から文政2(1819)年に至るまでの旗本のうち、大番、書院番、小性組、新番、小十人組の五番方および納戸、腰物方を勤めた『番士』の補任録です。任命順に各人の禄高や経歴が詳記され、名鑑・伝記としてのみならず幕府政治の基本を知る好史料です。	歴史/日本/江戸以前	・(付録)菊池義美編『総目録・名前目録・凡例』(YA@555)(3階マイクロ索引)			
YA@568	ペルー日本人移住史料館所蔵資料	1	21 reels	Museo Commemorativo de la Inmigracion Japonesa en el Peru(ペルー日本人移住史料館)	東京: 国立国会図書館, 1991.	国立国会図書館憲政資料室の日系移民関係資料のペルーに関するコレクションです。1991年に国立国会図書館が現地に職員を派遣してマイクロ撮影で収集したもので、日本帝国海外旅券、渡航者名簿、小学校国語読本教授要目、日本人在留調査などが収録されています。各リールの収録内容は国立国会図書館が作成したPDF(検索ツール欄参照)で見ることができます。	歴史/日本/明治:歴史/日本/大正:歴史/日本/昭和	・国立国会図書館. 2007年3月作成. 『ペルー日本人移住史料館所蔵資料』(PDF) <a href="https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/tmp/i3-d4.pdf">https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/tmp/i3-d4.pdf</a>	・国立国会図書館. 『国立国会図書館 移民資料』ペルー日本人移住史料館』 <a href="https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/tmp/i3-d4.pdf">https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/tmp/i3-d4.pdf</a>	全部で20巻(21リール)までありますが、13巻は元々欠落しています。	
MFA@14	ブランゲ文庫・雑誌コレクション = Gordon W. Prange magazine collection	2	17169枚	The Gordon W. Prange Collection, McKeldin Library, University of Maryland(メリーランド大学マッケルデン図書館ブランゲ文庫)	New York: Norman Ross Publishing, [199-]	1945-1949年の日本で発行された雑誌の網羅的なコレクションです。  米国のメリーランド大学歴史学教授ゴードン、W.ブランゲ博士(1910-1980, G.H.Q.民間検閲局歴史部長)が、日本占領下の時代に収集された資料群の歴史的価値に注目し、検閲終了後、米国機関で一括収蔵・保存することに努めました。現在は博士の希望通りメリーランド大学に寄贈され、同大学のマッケルデン図書館に収蔵されていますが、1979年にはブランゲ博士の功労を称えて「ブランゲ文庫」と命名されました。  1949年10月まで行われた検閲の対象は日本で発行されたあらゆる図書、雑誌、新聞であり、これを収録したブランゲ文庫は雑誌約13,800タイトル、新聞・通信約18,000タイトル、図書約73,000冊、通信社写真10,000枚、地図・通信640枚、ポスター90枚からなりますが、本マイクロはそのうちの雑誌部分のコレクションです。日本の国立国会図書館とメリーランド大学図書館の共同事業として1993年から1996年にかけてマイクロフィルムに撮影されました。なお何らかの理由で撮影されずにマイクロに収録されていない雑誌が若干存在します。  慶應義塾図書館では、以下の分類に該当するものを所蔵しています。 ・分類ZD【経済部門】 ・分類ZE【社会・労働部門】 ・分類ZF【教育部門】 ・分類ZS【科学技術部門】(ZS07『医師会報』のみ所蔵)	雑誌・新聞/日本/昭和	・(付録)Gordon W Prange Collection(MFA@14@事務用)(3階マイクロ索引)	・『メリーランド大学図書館所蔵ゴードン・W・ブランゲ文庫雑誌目録』(A@027.5@Pr1@1-1~3)  ・The Gordon W. Prange Collection, University of Maryland <a href="http://www.lib.umd.edu/prange/index.jsp">http://www.lib.umd.edu/prange/index.jsp</a> (18 May 2007)		
MFA@2	連歌俳諧書集成	2	10150枚	東京大学総合図書館	東京: 雄松堂, 1973-1979.	東京大学総合図書館に収蔵されている連歌俳諧書は、天理図書館の綿屋文庫と並んで、この分野の一大宝庫として知られています。それは同館蔵の版本・写本のほかにかつて「秋声界」のメンバーだった大野洒竹(1872-1913)、岡野知十(1860-1932)、角田竹冷(1856-1919)らの膨大な集書で構成され、このマイクロフィッシュ版は重複本を除き全3,674点を収録する大集成です。	文学・語学	・(付録)東京大学総合図書館編『連歌俳諧書目録(東京大学出版会刊)収録書総目録』(MFA@2)(3階マイクロ索引)		洒竹文庫連歌俳諧書集成 竹冷文庫連歌俳諧書集成 知十文庫連歌俳諧書集成 連歌俳諧書集成追補の部	

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@504	相良家史料	1	55巻	渋谷季五郎編纂 熊本県立図書館	[出版地不明]: [出版者不明], 1929.	<p>相良家は、肥後国球磨郡一帯を約700年にわたって支配した武家です。鎌倉時代初頭に人吉庄の地頭職に任ぜられて以来、当地に土着して南北朝時代から戦国時代にかけての戦乱を切り抜け、江戸時代には人吉藩2万2000石の大名となって明治時代の藩藩置県に至りました。当家に代々伝えられた古文書は「相良家文書」と呼ばれ、封建社会の政治・経済・文化の推移を知るための貴重な史料となっています。また、保存状態が良いため古文書学の立場からも高く評価されており、「島津家文書」「上杉家文書」とならぶ代表的な武家文書です。</p> <p>相良家の伝来文書のうち、天文年間以降の近世文書約2,000点は熊本県立図書館の、約200点は広島大学の所蔵ですが、一般に「相良家文書」といえば、中世文書を中心とした慶應義塾図書館所蔵のもの約1,400点を指し、重要文化財に指定されています。</p> <p>本マイクロの基となった「相良家史料」(全48巻)は、渋谷季五郎によって編纂された近世文書類で、現在は熊本県立図書館で所蔵しています。</p> <p>渋谷季五郎は明治24年に慶應義塾を卒業後、球磨郡で公職を歴任した人物です。相良家の委嘱を受け、昭和4年から9年にかけて文書の整理を行いました。既に『大日本古文書』(第5 相良家文書 東京帝国大学文学部史料編纂掛編纂)および『日本林制史資料』(第7巻 人吉藩篇 農林省編)に収録されているものを除き、重要と認められるものや編者の興味によるものを抜粋し、謄写しました。内容は江戸期のものが中心で、藩政に関する文書や幕府からの命令書、幕府役人や近隣他藩との書状、歴代藩主の日記・年譜、家中藩士の略図などです。一部に他家伝来の文書からの写しも含んでいます。</p>	歴史/日本/江戸以前:歴史/日本/明治	・(付録)『相良家史料 総目次』(YA@504@Index)(3階マイクロ索引)	・東京帝国大学文学部史料編纂掛編纂. 1917-1918年.『大日本古文書:家わけ.第5.相良家文書』[東京]:東京帝国大学.(A@210.088@D2@2-5)	
YA@586	三条実美関係文書:国立国会図書館憲政資料室所蔵	1	第1期 27リール 第2期 40リール 第3期 20リール	国立国会図書館 憲政資料室	東京:北泉社,1997-	<p>幕末・明治時代の公卿、政治家、三条実美に関する文書を集めた資料です。国立国会図書館が昭和25年に三条家より譲渡を受けマイクロフィルム化しました。</p> <p>リールは第1期から3期までに分けられており、第1期と2期が「書類の部」、第3期が「書翰の部」となっています。</p> <p>「書類の部」は、幕末期と明治期に大別してあり幕末期書類は年代順、明治期書類は内容の項目別に配列されています。「書翰の部」は、内容を問わず実方が死去した安政6年を境に、それ以前とそれ以後として分ち、前者を「三条実方関係書翰」、後者を「三条実美書翰」としてあります。</p> <p>また付属資料の目録には、「三条実美年譜」と解説「三条実美関係文書について」が収録されています。</p>	歴史/日本/江戸以前:明治:政治・外交/日本/江戸以前:明治	・(付録)目録『三条実美関係文書』(YA@586@Guide-1,2,3)(3階マイクロ索引)		シリーズ名ほか = 明治初期政治史料集成; 7 ・国立国会図書館デジタルコレクションで一部全文公開 <a href="http://dl.ndl.go.jp/">http://dl.ndl.go.jp/</a>
YA@490	静嘉堂文庫所蔵歌学資料集成	1	252 reels	静嘉堂文庫	東京:雄松堂フィルム出版,1976	<p>静嘉堂文庫とは、三菱第二代社長岩崎彌之助(1851-1908)と、その息子であり四代社長を務めた小彌太(1879-1945)の父子二代によって建設された、古典籍と東洋古美術品を収蔵する文庫です。そのコレクションは、青木信寅・山田以文・色川三中・田中頼庸・宮島藤吉・松井簡治等の旧蔵書を含む約20万冊の古典籍と5,000点の東洋古美術品からなり、中には国宝7点、重要文化財82点を含むなど、貴重な資料を数多く所蔵しています。静嘉堂文庫では、1973年より所蔵する和書のマイクロ化を進め、『国語学資料集成』『歌学資料集成』『物語文学書集成』『古辞書集成』など、文庫所有の国語・国文学関係の図書資料の大部分がマイクロ化されています。</p> <p>この資料は、静嘉堂文庫が所蔵する歌学関係書2,000点(5,000冊)のうち、重複本・明治期以降の刊写本・研究上の価値を認め難いもの・索引等を除いた1,133点(3,192冊)を7編に分類し編集したものです。上代の歌経標式から近世末期の歌書までの歌学書集成です。</p> <p>各編の収録状況は次の通りです。 第1編:総記(276点):reel 1~50 第2編:勅撰集(93点):reel 51~88 第3編:私撰集(231点):reel 89~150 第4編:御集・家集(276点):reel 151~196 第5編:歌合・歌会(103点):reel 197~206 第6編:連歌・俳諧(106点):reel 207~244 第7編:狂歌・川柳(48点):reel 245~252</p>	文学・語学/日本/江戸以前:風俗・文化/日本/江戸以前	・(付録)『マイクロフィルム版静嘉堂文庫所蔵歌学資料集成収録書総目録』(YA@490@Index)(3階マイクロ索引)	<p>『静嘉堂文庫所蔵古辞書集成』(YA@535)</p> <p>・『源氏物語』(YA@519)</p> <p>・静嘉堂文庫編纂.1929.『静嘉堂文庫国書分類目録』砧村(東京府):静嘉堂文庫(RA@029.6@S1@1-1)</p> <p>・静嘉堂文庫編.1939.『続静嘉堂文庫国書分類目録』[東京]:静嘉堂文庫(RA@029.6@S1@1-2)</p> <p>・国立国会図書館支部静嘉堂文庫編.1956.『再続静嘉堂文庫国書分類目録』[東京]:国立国会図書館管理部(RA@029.6@S1@1-3)</p>	「静嘉堂文庫国書分類目録」(関連文献)は国立国会図書館デジタルコレクションで公開 <a href="http://dl.ndl.go.jp/">http://dl.ndl.go.jp/</a>
YA@535	静嘉堂文庫所蔵古辞書集成	1	178 reels	静嘉堂文庫	東京:雄松堂フィルム出版,1986.	<p>静嘉堂文庫とは、三菱第二代社長岩崎彌之助(1851~1908)と、その息子であり四代社長を務めた小彌太(1879~1945)の父子二代によって建設された、古典籍と東洋古美術品を収蔵する文庫です。そのコレクションは、青木信寅・山田以文・色川三中・田中頼庸・宮島藤吉・松井簡治等の旧蔵書を含む約20万冊の古典籍と5,000点の東洋古美術品からなり、中には国宝7点、重要文化財82点を含むなど、貴重な資料を数多く所蔵しています。静嘉堂文庫では、1973年より所蔵する和書のマイクロ化を進め、『国語学資料集成』『歌学資料集成』『物語文学書集成』『古辞書集成』と、文庫所有の国語・国文学関係の図書資料の大部分がマイクロ化されています。</p> <p>この資料は、静嘉堂文庫が所蔵する古辞書の写本・刊本361部(2,137冊)を辞書の部(231点1177冊:1-106reelに収録)、事業の部(130点960冊:107-178reelに収録)の2部に分け、平安期の『新撰字鏡』『和名類聚抄』『類聚名義抄』『色葉字類抄』、中世の『下学集』『運歩色葉集』『節用集』、近世の『東雅』『和訓類林』『鸚鵡抄』『訓蒙図彙』『和漢三才図会』、明治初期の『文芸類纂』などを収録しています。さらに類書・伝書の類や近世諸学者の考証・研究書も含み、日本辞書史を総観することができます。</p> <p>慶應義塾図書館では、静嘉堂文庫の次のマイクロ資料を所蔵しています。 ・『静嘉堂文庫所蔵歌学資料集成[microform]』(YA@490) ・『源氏物語[microform]』(物語文学書集成:静嘉堂文庫所蔵;第2編)(YA@519)</p>	文学・語学/日本/江戸以前:図書/日本/江戸以前	・(付録)『マイクロフィルム版静嘉堂文庫所蔵古辞書集成収録書目録』(YA@535@Index)(3階マイクロ索引)	<p>静嘉堂文庫編纂.1929.『静嘉堂文庫国書分類目録』砧村(東京府):静嘉堂文庫(RA@029.6@S1@1-1)</p> <p>・静嘉堂文庫編.1939.『続静嘉堂文庫国書分類目録』[東京]:静嘉堂文庫(RA@029.6@S1@1-2)</p> <p>・国立国会図書館支部静嘉堂文庫編.1956.『再続静嘉堂文庫国書分類目録』[東京]:国立国会図書館管理部(RA@029.6@S1@1-3)</p> <p>・静嘉堂文庫編.1976.『静嘉堂文庫所蔵歌学資料集成[microform]』東京:雄松堂フィルム出版(YA@490)</p> <p>・『源氏物語[microform]』(物語文学書集成:静嘉堂文庫所蔵;第2編)東京:雄松堂フィルム出版(YA@519)</p>	「静嘉堂文庫国書分類目録」(関連文献)は国立国会図書館デジタルコレクションで公開 <a href="http://dl.ndl.go.jp/">http://dl.ndl.go.jp/</a>

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@606	一九二〇年代社会運動関係警察資料	1	12リール	リール第1巻, 第3-12巻は東京都立大学図書館蔵、第2巻は国立公文書館所蔵  廣畑研二編・解説	東京: 不二出版, 2003	1920年代の日本国内外での社会運動取り締まりに関する警察資料のマイクロ版です。内閣書記官室旧蔵文書類が13点(リール1)、内務省警保局文書が4点(リール2)、警視總監室旧蔵文書郡98点(リール3~12)、の計115点の文書を収録しています。これらに文書の中には、内務「大正十四年ニ於ケル労働運動ノ状況」(内務省警保局)のように、総合年報『社会運動ノ状況』シリーズのうち未だ発掘されていなかった大正十四年版を構成する分冊が3冊含まれています。また、「事務成績」「労働情報」のようにこれまで存在を知られていなかった文書もあります。なお、同じく戦前期の内務省や特高警察による機密文書を収録した『特高警察関係資料集成』(不二出版 1991-1995年)と重複する資料は含まれていません。	社会思想・社会問題/日本/大正:社会思想・社会問題/日本/昭和	・(付録)『一九二〇年代社会運動関係警察資料解説・総目録・索引』(YA@606@Guide)		16mm
YA@598	島津家文書: 東京大学史料編纂所所蔵	1	223リール	東京大学史料編纂所	東京: 東京大学出版会, 2000.	島津家文書は、旧薩摩藩主島津家重代相伝の文書で、時期は平安時代から幕末維新期に及びます。東京大学史料編纂所が所蔵する島津家文書のマイクロ版は1.島津家文書 2.島津家本 3.旧記雑録の三部で構成され、本マイクロは1.島津家文書にあたります。『大日本古文書』(第16 島津家文書 東京帝国大学文科大学史料編纂掛編纂)未収録分も収録されています。  内容は、源頼朝下文を含む始祖島津忠久以来の歴代の中世文書と十五代貴久以来本宗家を継いだ伊作島津氏の中・近世文書を中心としています。これらの文書の内、手鏡仕立てのものは島津家にとっての最重要文書とされ、『歴代亀鏡』2帖は、源頼朝・足利尊氏・織田信長らの文書、『国統新亀鏡』1帖は、徳川家康書状および御内書・徳川秀忠・徳川家光の御内書の一部、『宝鏡』2帖は、鎌倉幕府関係の文書、『手鏡』2帖は、近衛前久ら近衛家よりの書状類を収めています。その他は、鎌倉・室町期の文書も含めて卷子仕立てにされており、大部分は戦国期以降の近世島津氏に関わる文書で『御文書』と外題が付されています。また上記の他、系図や国絵図や寺院文書も収録しています。	歴史/日本/江戸以前:政治・外交/日本/江戸以前	・(付録)解題(YA@598@Guide) ・(付録)索引(CD-ROM(YA@598@X))		16mm
YA@602	清代巴県档案: 乾隆(公元1736年-1795年)	1	21リール	中国四川省档案馆	中国四川省档案馆	中国四川省档案馆(四川省成都市)が所蔵する18世紀から今世紀初頭にかけての四川省重慶とその周辺の裁判記録である「巴県档案」のマイクロ版です。その期間の長さ、記録の多さ、内容の豊富さに於いて、清代後半中国の社会・政治・経済・文化・軍事・司法について詳細な情報を提供する重要な史料であると言えます。このマイクロの収録範囲は、乾隆(1736年-1795年) 治世の部分となります。	法律・判例/中国/近世:社会思想・社会問題/中国/近世:政治・外交/中国/近世:経済・経営/中国/近世:風俗・文化/中国/近世		・唐沢靖彦.2001年.「清代告訴状のナラティブ―歴史学におけるテキスト分析(シンポジウム 作者・読者・テキスト)」『中国: 社会と文化』16号 p.2-17	16mm
YA@562	諸家系図集(諸家系図史料集)	1		国立公文書館内閣文庫	東京: 雄松堂, 1975.	本書は『大日本史』編集の際に集められた系図資料をもとに、丸山可澄(活堂)が編集しました。昌平坂学問所の旧蔵書で、その後内閣文庫の所蔵となりました。  『大日本史』は、水戸藩第二代藩主徳川光圀が明暦3(1657)年に始めたもので(当初は『本朝之史記』)、この修史事業が完了したのは廃藩後の明治39年です。『大日本史』編纂のため、水戸藩には修史局として彰考館が設けられました。丸山可澄は光圀の命で諸国をまわって史料を収集し、彰考館で書籍の管理・出納役をつとめました。  彰考館の修史事業においては、諸家の符牒を明らかにするために、多くの諸家系図史料が収集されました。しかしこれらが紛乱して考察に不便だったため、姓氏を分類して編修したものが本書『諸家系図集』です。その後の追補も見られますが、大体は元禄5(1692)年に成立したものと考えられています。  内容は、源氏各流、桓武平氏、藤原氏、橘氏、紀氏、清原氏、中原氏、菅原氏その他諸氏の順に、公、武諸家の系図を収め、本姓未詳、社家、仏門は各々類としています。同じ家の系図でも別本は重複して収められており、各系図には出典が示されています。  『続群書類従』や『系図総覧』所収の系図には、本書から採録したものが多くみられます。	歴史/日本/江戸以前	(付録)『マイクロフィルム版「諸家系図史料集」解題目録』(YA@561-564@INDEX)(3階マイクロ索引)	諸家系図史料集には他に以下の編が刊行されている。 ・『百家系図』(YA@561) ・『諸系譜』(YA@563) ・『改選諸家系譜』(YA@564)	・国立公文書館デジタルアーカイブで全文公開 <a href="https://www.digital.archives.go.jp/">https://www.digital.archives.go.jp/</a>
YA@563	諸系譜(諸家系図史料集)	1	6リール	国立国会図書館	東京: 雄松堂, 1975	本マイクロフィルムは国立国会図書館所蔵の幕末から明治期に編纂された諸家系図の集成です。もともとは65冊あったものが33冊に合冊されており、表紙の表記から少なくとも3種以上の系図集成を組み合わせてひとつに編纂したと考えられます。  明治時代の系図学者鈴木真年や中田憲信、山田正修らの収集史料を合わせて採録したもので、成立についての詳細は不明ですが、鈴木が死去した翌年の記述があることから、中田の編纂ではないかと推測されます。  内容の特徴として、鈴木・中田が司法省に勤務していたことから、司法関係者の家系図が多数収録されていること、中田の転勤先であった徳島県下10郡のうち2郡を除き、郡ごとに諸家、寺社に伝存された系図・古文書・棟札・碑文・その他史料など、地域的に収集した資料が収録され、歴史的史料としても貴重であることが挙げられます。  『古代氏族系譜集成』(宝賀寿男編著 1986.全3冊 A@288.2@H2@1-1~3)所収の古代氏族系図には本資料から多く採録されています。	歴史/日本/江戸以前:歴史/日本/明治	(付録)『マイクロフィルム版「諸家系図史料集」解題目録』(YA@561-564@INDEX)(3階マイクロ索引)	諸家系図史料集には他に以下の編が刊行されています ・『百家系図』(YA@561) ・『諸家系図集』(YA@562) ・『改選諸家系譜』(YA@564)	

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@516	証券経済資料	1	38巻		東京:雄松堂書店(発売),1977	<p>東京株式取引所は日本初の公的な証券取引機関で、明治11(1878)年5月15日に設立されました。昭和18(1943)年6月30日に日本証券取引所に改組されましたが、戦争の混乱により昭和20(1945)年8月10日に取引が停止しました。昭和24(1949)年4月1日に現在の東京証券取引所が設立され、取引が再開されて今に至ります。</p> <p>本資料は、設立から改組を経て取引が停止されるまでの、約60年にわたる東京株式取引所の代表的刊行物をマイクロフィルム化したものです。国内の株式取引所だけでなく、各種取引所や海外取引所の調査報告文献が含まれています。</p> <p>各リールの収録内容は以下の通りです。慶應義塾図書館でオリジナルの冊子体を部分的に所蔵しているものもあります。</p> <p>リール1:東京株式取引所月表(明治19年1月～大正13年12月中)  リール2-9:東京株式取引所統計月報 第1～148号(昭和5年9月～17年12月中)  リール10:東京株式取引所統計月報 第149～153号(昭和18年1月～5月中)日本証券取引所統計月報 第1～7号(昭和18年6月～12月中)  リール11:日本証券取引所統計月報 第8～19号(昭和19年1月～11月中)※第18号は未刊  リール12-29:東京株式取引所調査彙報 第1～187号(大正15年1月～昭和18年5月中)  日本証券取引所調査月報 第1～9号(昭和18年6月～19年2月中)  リール30:東京株式取引所沿革及統計(明治11～40年中)  リール30:東京株式取引所史(明治11～大正4年中)  リール31:東京株式取引所50年史(明治11～昭和2年中)  リール31-32:東京株式取引所史 第2巻(昭和3～7年中)・第3巻(昭和8～12年中)  リール33-34:東京株式取引所営業報告書 第1～31回(明治11年6月～26年9月中)  リール35-38:東京株式取引所営業報告書 改正第1～100回(明治26年10月～昭和18年5月中)</p>	金融・財政/日本/明治:金融・財政/日本/大正:金融・財政/日本/昭和	・(付録)『マイクロフィルム版証券経済資料収録明細』(YA@516@Index)(3階マイクロ索引)	<p>・『東京株式取引所統計月報』(地下4階雑誌)</p> <p>・『日本証券取引所統計月報』(地下4階雑誌)</p> <p>・『営業報告明細書』(山中資料センター)</p> <p>・東京株式取引所編.1928年.『東京株式取引所五十年史』東京:東京株式取引所(EC@8A@335)</p> <p>・東京株式取引所編.1933-1938年.『東京株式取引所史』第2巻.東京:東京株式取引所(EC@8A@758@2)</p> <p>・東京株式取引所編.1933-1938年.『東京株式取引所』第3巻.東京:東京株式取引所(EC@8A@758@1)</p>	
YA@23	初期日本英学資料集成	1	34リール	若林正治氏(京都:春和堂)蔵ほか	東京:雄松堂フィルム出版, c1976.	<p>英学とは英語を学び英米の学問をすることで、漢学や蘭学の伝統を受け継いで幕末に始まり、明治時代に盛んでした。本マイクロには主として幕末・維新時代に刊行された英学書(全230点295冊)が含まれます。</p> <p>語学書だけではなく、歴史、地理、理科などの多岐に渡る分野の資料が読本(リーダー)として収録されています。例としては、渡部温が沼津学校でAdam Smithを講じた『経済説略』(The compendium of political economy)や、Mary A. Swiftが天文学を扱った『理学初歩』(First lessons on natural philosophy, for children)などがあります。</p> <p>また、この時代の特徴として偽版・異版が多く出ていることが挙げられます。Lindley MurrayやVan der Pijilの文法・会話書や、『薩摩辞書』がその例です。</p> <p>本マイクロは以下の6項目に分類されており、項目中の配列は刊行年順です。刊行年不明のものは各項目の最後にまとめて収録されています。</p> <p>R1-R16:辞書  R17-20:文法 R21-24:音韻・文字 R25-28:単語  R29-32:会話・書簡  R33-34:読本</p>	文学・語学/日本/江戸以前:文学・語学/日本/明治	(付録)『初期日本英学資料集成収録書総目録』(YA@23@Index)(3階マイクロ索引)		
YA@584	植民地期台湾産業・経済関係資料:マイクロ版集成	1	51巻		東京:丸善, [19--]	<p>戦前植民地台湾における製糖業を中心とする民間(糖業連合会)・総督府双方のきわめて貴重な史料。台湾総督府文書や糖業協会にのみ存在する台湾総督府役人のオリジナル文書といった、いまだ復刻されていない一級の史料もおさめられています。</p> <p>本マイクロフィルムは、大きく二つの部分から構成されており、「第一部:糖業連合会関係史料」と「第二部:台湾総督府発行史料ほか」に分かれています。糖業連合会は明治43年9月に台湾製糖、明治製糖、塩水港製糖、東洋製糖、新高製糖の5社によって結成され「台湾糖業連合会」としてスタートし、明治44年4月には現地台湾に台湾支部が設置されました。第一部は戦前の糖業連合会関係の議事録です。具体的には、「協議会会議案」、「協議会議案決議」、「協議会決議」、「決議録謄本」と「台湾支部議事録」を主たる内容としており、「極秘文書」、「秘文書」、「理事会関係」、「甘蔗對抗作物価格並労銀調目録」、「日蘭会商関係」、「三井物産砂糖部報」も含まれています。</p> <p>第二部は、台湾総督府発行文書、各種調査会の議事録、糖業連合会発行文書、台湾史・見聞録などから構成されています。その中心をなす台湾総督府発行文書には「農業基本調査」、「旧慣調査」、糖業関係文書に加え、糖業協会だけが所蔵する「中瀬文書」や「酒井文書」といったオリジナル史料があります。</p>	産業/台湾/20世紀:経済・経営/台湾/20世紀:歴史/台湾/20世紀	・(付録)『植民地期台湾産業・経済関係史料マイクロ版集成』(YA@584@Guide 3階マイクロ索引)		16mm

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@532	正倉院文書	1	33巻	宮内庁製作	東京:高橋写真,1985	<p>正倉院文書とは、奈良東大寺正倉院に伝来した写経所の古文書で、光明皇后の皇宮宮職が発展して東大寺写経所に至るまでの一連の写経所で作成された、事務用帳簿を主体とする文書です。当時は事務用帳簿などには一度使われて反故にされた文書の裏を再利用することが多く、写経所でも写経所内で使われた文書、また戸籍などの公文書が再利用されていました。このためいわゆる紙背文書として、律令時代の公文書も多く残され、写経所で作成された文書、写経所に届いた文書、反故等全てが残されているため、写経事業の進歩状況、当時の造寺造仏事業、戸籍等が解り、政治・経済・宗教にまたがる日本古代史研究の基礎的資料となっています。</p> <p>正倉院文書の整理はまず天保4年から7年の正倉院宝庫修理に際して穂井田忠友(1791-1847)により行われ、正集45巻が成巻されます。その後明治8年～37年にかけて浅草文庫や内務省・宮内省正倉院御物整理掛において整理されますが、整理の過程においては、時々担当者がそれぞれ設定した主題の文書を抜粋して編成・成巻を行ったため、連続していた写経所文書の本来の姿が破壊されたものもありました。しかしながら昭和に入って以後も研究が続けられた結果や、宮内庁書陵部によるマイクロフィルム化によって原本に近い姿に接することができるようになりました。</p> <p>当マイクロフィルムは正集45巻、続修50巻、続修後集43巻、続修別集50巻、続々修47帙、塵芥39巻の他に献物帳や東南院文書(東大寺の印蔵に伝わった文書)等も含まれています。</p> <p>現在でも正倉院文書については研究書・論文が多数発表されており、東京大学史料編纂所や宮内庁などにおいても様々な角度から研究が進められています。</p>	歴史/日本/江戸以前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学史料編纂所編纂.1987年.『正倉院文書目録』東京:東京大学(A@210.3@T43@1-1~1-5)</li> <li>・正倉院文書データベース(SOMODA) http://somoda.media.osaka-cu.ac.jp/(参照2018年11月29日)</li> <li>・東京大学史料編纂所データベース http://wwwap.hi-u-tokyo.ac.jp/ships/</li> <li>・東京大学史料編纂所データベース http://wwwap.hi-u-tokyo.ac.jp/ships/</li> <li>・奈良時代古文書フルテキストデータベースから「項目検索」を選択すると、本文中の語句や和暦年月日から検索できます。(参照2018年11月29日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学史料編纂所データベース http://wwwap.hi-u-tokyo.ac.jp/ships/</li> <li>・正倉院文書マルチ支援データベース、奈良時代古文書フルテキストデータベース(参照2018年11月29日)</li> <li>・(影印写真版)宮内庁正倉院事務所編,1988年,『正倉院古文書影印集成』東京:八木書店(A@210.088@57@1-1~17)。「続々修」は未刊(2018年現在)。『大日本古文書』に未収含む。</li> </ul>	
YA@483	大正・昭和年間府県統計書集成	1	636リール		東京:雄松堂フィルム出版,1966-1971	<p>「府県統計書」とは各都道府県の管轄区域における諸種全般の統計書です。明治6～7年前後の発行当初は、『何々県一覧表』、『何々県治一覧表』と称され、形態も簡易な一枚刷りのものでした。明治16年の内務省「府県統計書様式」布達により全国統一様式が用いられるようになると、分類項目・収録データの充実が図られ、『何々県統計書』として昭和16～17年頃まで刊行されました。戦後の復刊・改称を経て、今日各都道府県により毎年刊行されている『何々県統計年鑑』へと繋がっており、日本を代表する長期・地方統計です。</p> <p>本マイクロ資料は、大正2年より終戦頃まで発行された府県統計書のうち、原本が発見されている約4,550冊分を収録しています。</p>	統計/日本/大正:統計/日本/昭和	<ul style="list-style-type: none"> <li>(付録)『大正・昭和年間府県統計書集成 収録書総目録』(YA@483@Index@E2)(3階マイクロ索引)</li> <li>(付録)『都道府県統計書集成 総目録』(YA@483,488@Index)(3階マイクロ索引)</li> <li>※『明治年間府県統計書集成』(YA@488)『大正・昭和年間府県統計書集成』(YA@483)『都道府県統計書集成:戦後編』(YA@483)の総索引</li> </ul>	<p>本資料の内容はすべて契約データベースの『都道府県統計書データベース(PSO)』に含まれます。 https://auth.lib.keio.ac.jp/db/?key=prefectural(参照2018年11月30日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『明治年間府県統計書集成』(YA@488)</li> <li>・『都道府県統計書集成:戦後編』(YA@483@637-956)</li> </ul>	<p>その他のタイトル=Collection of the Statistical Annuals of the Respective Prefectures in Japan, 1913-1945</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース『都道府県統計書データベース(PSO)』にて全文入手可能</li> </ul>
YA@583	大正期婦人問題文献集成	1	214巻	国立国会図書館編・所蔵	東京:日本図書センター,1998.	<p>国立国会図書館所蔵の婦人関係文献のうち、大正年間に刊行された婦人問題全般585点を収録。平塚らいてう、山川菊栄、与謝野晶子、奥むめお、高郡逸枝、山田わかなどの著作をはじめ、エレン・ケイ、ペーベル、ジョン・スチュアート・ミルなどの翻訳書も併せて収録しています。</p> <p>第1期:大正元年～大正5年 第2期:大正6年～大正11年 第3期:大正12年～大正15年</p>	歴史/日本/大正:風俗・文化/日本/大正:図書/日本/大正	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(付録)『大正期婦人問題文献集成 収書目録』(3階マイクロ索引)YA@583@Guide</li> </ul>		
YA@600	田中義一関係文書:山口県文書館所蔵:マイクロフィルム版	1	書類の部:26リール	山口県文書館 岩壁義光,小林和幸,広瀬順皓編修	東京:北泉社,2001.	<p>明治後期から昭和初期にかけて軍事・政治・外交・経済の分野にわたって重要な役割を演じた田中義一に関する「田中義一関係文書」は、山口県文書館によって整理され閲覧に供されていますが、そのうちの書類の部のマイクロ版です。大正から昭和初期にかけての転換期の政治・軍事・社会運動の過程を研究するうえで有益な史料で、大正中期以後の書類が多く収められています。</p>	政治・外交/日本/明治:政治・外交/日本/大正:政治・外交/日本/昭和:国防・軍事/日本/江戸以前:国防・軍事/日本/明治:国防・軍事/日本/大正	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(付録)『田中義一文書 書類の部 山口県文書館所蔵』(YA@600@1@Guide)分類順・索引無し</li> <li>田中義一関係文書(山口県文書館蔵)目録 https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/tmp/index_tanakaichi.pdf(参照2018年11月29日)</li> </ul>		
YA@587	谷干城関係文書:立教大学図書館所蔵	1	15巻	立教大学図書館	東京:北泉社,1995.	<p>昭和37年に立教大学図書館が購入し、昭和49年同大学教授によって「谷干城関係文書」として目録が刊行され研究者に公開された資料のマイクロフィルム版です。生涯の前半を軍人として過ごし、後半は帝国議会の貴族院議員として活躍した政治家「谷干城」を「政治家」としての側面から概観し検討することを目的として作成されました。</p> <p>内容は「書翰の部」(谷干城宛書翰・第三者間書翰)と「書類の部」(日記・著作・草稿類、陸軍、学習院、憲法・議会、詩文稿、諸団体、履歴・届類、書籍、領収書、勲記・辞令、その他)の二つに大きく分類されています。</p> <p>付属資料の目録には「解説」と「谷干城関係年譜(稿)(天保8年2/12～明治44年5/13)」が収録されています。</p>	政治・外交/日本/江戸以前-明治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(付録)解説書『谷干城関係文書』(YA@587@Guide)(3階マイクロ索引)</li> </ul>	谷干城関係文書(寄託・国立国会図書館) https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/tanitateki2.php(参照2018年11月29日)	シリーズ名ほか=明治初期政治史料集成;4
YA@572	東亜同文書院中国大旅行	1	14リール	原本の発行元:東亜同文書院所蔵館:愛知大学	東京:雄松堂,1996.	<p>東亜同文書院の学生達による戦前(1907-1943年)の中国各地の旅行記録です。第5期生(明治40年度)から第40期生(昭和17年度)までの学生の旅行記録で日記や随筆風に各班・各コース毎にまとめられています。</p> <p>愛知大学の前身である東亜同文書院は、1901年に上海に建学された日本人のための高等教育機関で、多数の有能な卒業生を産業界や植民地行政の分野に輩出した名門校かつビジネススクールでした。設立の目的は日中間の文化交流事業や貿易実務に必要な人材を養成することにありましたが、その実践として学生達は中国全土を踏査する調査旅行を行いました。研究テーマは、産業、交通、人口、教育、社会組織、災害など多岐に渡ります。「大旅行」と呼ばれたこの調査旅行は5期生の最終年度(1907年)から終戦頃まで行われ、卒業論文風の「調査報告書」と日記風の「大旅行誌」が提出されましたが、本マイクロフィルムは「大旅行誌」にあたります。</p> <p>本マイクロフィルムは愛知大学の「霞山文庫」所蔵分と、一部東洋文庫所蔵分を収録したもので、「大旅行誌」のほぼ全てが網羅されています。</p>	経済・経営/中国/現代:商業・会計/中国/現代:産業/中国/現代:風俗・文化/中国/現代	<ul style="list-style-type: none"> <li>『東亜同文書院 中国調査旅行報告書 総目次』(付録:大旅行誌.解説:藤田佳久)東京:雄松堂(YA@571@Guide)(3階マイクロ索引)</li> </ul>	『中国調査旅行報告書』(YA@571)※大旅行に参加した学生達の調査報告書。	別タイトル:東亜同文書院大旅行誌
								<ul style="list-style-type: none"> <li>藤田佳久編著.1994-.『東亜同文書院・中国調査旅行記録』豊橋:愛知大学,東京:大明堂.(A@292.209@T4@2-1~)※マイクロに含まれなかった、調査報告書に途中から挿入された日誌部分。</li> </ul>		

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@585	土地経済資料	1	110巻		東京: 雄松堂フィルム出版, 1974.	明治以降昭和20(1945)年までの、農林省(農商務省)刊行の調査・報告文献と、帝国農会などの公的機関、各種団体による文献を収録。半封建的土地制度にささえられたわが国の経済は、戦後の農地解放によって画期的な変革を遂げ、高度経済成長経路後には、機械化の促進、専業農家の減少など農業経済の姿はいちじるしく変容しました。過去の農産物価格、所得、労働、農地、農業政策などの分析はその要因を探る意味でも重要といえます。	産業/日本/明治:産業/日本/大正:産業/日本/昭和	『リアル別収録書総目録』 https://myrp.maruzen.co.jp/wp-content/uploads/ysd_a_gc6025_li_toc hikeizai.pdf (参照2018年11月30日)		『リアル別収録書総目録』A5版は所蔵なし
YA@552	東北大学附属図書館所蔵狩野文庫マイクロ版集成	1	2322リール	東北大学附属図書館	東京: 丸善, 199?-	<p>東北大学に収蔵される狩野文庫は、出羽国大館(現秋田県大館市)出身の学者、狩野亨吉(かのうこうきち)の旧蔵書です。狩野博士は、旧四高・旧五高の教授、旧一高校長を経て、明治39(1906)年京都帝国大学文学科大学長に就任します。その際に幸田露伴、内藤湖南など狩野の研究者を採用するといった大胆な人事を行いました。退官後、書画の鑑定や古書売買斡旋などを業とする一方、自然科学思想史の開拓者として、安藤昌益、本多利明、志筑忠雄らを発掘したことも知られています。</p> <p>古書収集家としても有名で、和漢古書を中心とした幅広い分野の質の高いコレクションは総数10万8000冊にのぼり、「古典の百科」とも称せられました。これらの蔵書は生前より東北大学附属図書館に納入され、中には後に国宝に指定される「史記 考文本紀 第十」(延久5年(1073)写)、「類聚国史 卷二十五」(平安時代末期写)といった貴重な資料も含まれます。</p> <p>狩野文庫のうち、和書の線装本・貴重書約55,000冊をマイクロフィルム化したものが本資料です。資料は以下のように分類され、収録されています。</p> <p>第1門 総記・雑書 第2門 哲学・宗教・教育 第3門 歴史・地理 第4門 語学・文学 第5門 美術・工芸・技芸 第6門 法律・政治・経済 第7門 数学 第8門 理学 第9門 医学 第10門 工学・兵学</p> <p>また、マイクロフィルム化された資料の一部は電子化され、東北大学附属図書館のホームページで見ることが可能です。</p>	図書/日本/江戸以前	・(付録)『東北大学附属図書館所蔵狩野文庫目録 和書之部』(YA@552@Index)(3階マイクロ索引)	・東北大学附属図書館狩野文庫データベース <a href="http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398kano">http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398kano</a> (参照2018年11月29日) 狩野文庫データベースは、狩野文庫の和書、洋書、絵葉書の書誌データを検索でき(漢籍や新書などは未収録) 和書約1,180点と絵葉書約17,000点は画像も公開している。	東北大学附属図書館狩野文庫データベースで一部公開 <a href="http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398kano">http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398kano</a> (参照2018年11月29日)
YA@588	徳川幕府引継書: 国立国会図書館所蔵	1	925巻	南, 和男 国立国会図書館	日本マイクロ写真株式会社, 1970.	<p>慶応4年の南北両町奉公所の廃止によって町奉公書類は新政府の市政裁判所に引継がれました。更に同年、江戸は東京と改まり市政裁判所が消滅し、東京府庁が開設されました。これらの推移で東京府町に引継がれた江戸幕府官衙の諸書類・諸記録を総称して「旧幕府引継書」と呼ばれています。資料は後に東京府から旧上野野国図書館に移され、現在は国立国会図書館が保管しています。その他の原資料である『評定所記録』、『寺社奉公所記録』は東京大学に保管されていましたが、共に関東大震災で焼失してしまった為、現在江戸幕府の中央奉公所書類を一括収録しているのは本資料のみになります。</p> <p>第1集から4集までに分かれており、政治・法制・社会・経済から風俗・世相に関するものも収録されていたりと町民の日常生活にまで及ぶほど広範囲な内容になっています。天保改革に関する法令も収められています。</p> <p>【第一集】:市中取締関係書 【第二集】:寺社奉行書類・裁判判例関係書 【第三集】:市政関係書 【第四集】:経済関係書・地誌関係書・外国事件書</p> <p>なお、第四集「経済関係書」に含まれる札差関係資料は、『札差に関する記録』(YA@474/475)として別に所蔵しており、本資料には含まれない「札差改革」も収録しています。</p>	歴史/日本/江戸以前:政治・外交/日本/江戸以前	・(付録)『旧幕府引継書解説第一集 第四集』、『旧幕府引継書解説(続) 第二集 第三集』 南和男著 (1971.12刊)  (YA@588@Guide-1,2)(3階マイクロ索引) 一部はデジタル化されており、国立国会図書館デジタルコレクション <a href="http://dl.ndl.go.jp/">http://dl.ndl.go.jp/</a> (参照2018年11月30日)		その他のタイトル = 旧幕府引継書 容器のタイトル: 旧幕府引継書
YA@200	敦煌古文書: スタイン収集大英博物館所蔵	1	106リール	British Library	London: British Library, [19--]	<p>敦煌古文書(および敦煌文献)とは、敦煌市の莫高窟(敦煌千仏洞)という石窟に封蔵されていた古文書の総称です。19世紀末、道士・王円徐(おうえんろく)により発見された数万点に及ぶこの文献群は、4~11世紀初期頃の仏教典・写本、仏画、その他非仏教文献等からなっており、使用言語は8割以上が漢文、次いでペリオ、その他に古代トルコ文、ホータン文、サンスクリット(梵文)などです。20世紀初め、イギリスの探検家・考古学者であるMarc Aurel Stein(マーク・オーレル・スタイン)、フランスのPaul Pelliot(ポール・ペリオ)、ロシアのOldenburg(オルデンブルグ)探検隊、日本の大谷探検隊などがこの文献群を大量に持ち出したことにより、広く世界にその存在が認知されました。貴重書も含まれていますが、文献の多くは断片であり、寺院の経蔵・文書庫などからの不要・退職品であったとされています。しかし、大量の古代写本が中国・東アジア地域で伝存する例はほとんどなかった為、この発見は学界の関心を集め、「敦煌学」と呼ばれる学問を体系づけました。</p> <p>British Libraryのスタインコレクションは、45,000点以上の写本や紙、木、その他の材料に印刷された文書を含み、中国語、チベット語、サンスクリット、西夏語、ホータン語等、様々な言語によるものです。</p> <p>そのうち、本マイクロには漢文写本約7,000点を収録しています。 British Libraryで所蔵する漢文写本は断片を多く含むため完全な目録は無く、全部で14,000点以上あるとされています。</p> <p>なお国際敦煌プロジェクト(IDP)のサイトでは国際協力のもと、敦煌古文書をインターネット上に公開をすすめており、本マイクロに収録される資料の多くを見ることができます。</p> <p>■各リールの収録内容 収録されているタイトルについては『敦煌遺書総目録』(YA@200@Index)109頁以降の「二、斯坦因劫経録」を参照してください。S.ではじまる文献番号に対応しています。</p> <p>※Reel106巻収録の文献番号P.1~P.19の紙片には、索引がなく明確な標題もありません。IDPのホームページ、文献番号による画像検索を行うと、文献タイトルが確認できるものもあります。</p>	哲学・宗教/中国/近古:風俗・文化/中国/近古	<p>商務印書館編『敦煌遺書総目録』(YA@200@Index)(3階マイクロ索引)</p> <p>敦煌研究院編『敦煌遺書総目録 新編』(A@222.17@Dul@1)</p> <p>※新編の文献番号は原編と同一です。新編には、題記の校正、未命名であった佛経への題記付け、及び説明事項などが加えられています。また、各題記に(首題)(原題)(尾題)などの標記がなされ、文献のどの部位から標題が録られたのか明らかにしています。 国際敦煌プロジェクト(International Dunhuang Project)(<a href="http://idp.bl.uk/">http://idp.bl.uk/</a>)(日本サイト <a href="http://idp.afc.ryukoku.ac.jp/">http://idp.afc.ryukoku.ac.jp/</a>) (参照2018年11月30日)</p>	<p>・国立情報学研究所『東洋文庫所蔵』貴重書デジタルアーカイブ <a href="http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/">http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/</a>(参照2018年11月30日).</p> <p>・フランス国立図書館所蔵の敦煌文書「ペリオコレクション」 <a href="http://www.afc.ryukoku.ac.jp/pelliot/indexjp.html">http://www.afc.ryukoku.ac.jp/pelliot/indexjp.html</a> (参照2018年11月30日)</p> <p>・吉岡義豊編.1969年.『敦煌文献分類目録:スタイン将来大英博物館蔵道教之部』.東京:東洋文庫.(A@222.008@T2@1-3)</p> <p>・金岡照光編.1971年.『敦煌出土文学文献分類目録附解説:スタイン本・ペリオ本』.東京:東洋文庫.(A@920.3@K3@1)</p> <p>・国際マイクロ写真工業社.1986年.『敦煌文献:ペリオ収集』.東京.(A@222.17@T1@1-)</p> <p>・池田温編.1992年.『敦煌漢文文献』.東京:大東出版社.(A@222.17@K2@1-5)</p>	その他のタイトル = Stein Rolls. その他のタイトル = Stein Collection of Tun-Huang manuscript at the British Museum.  スタイン収集大英博物館所蔵



請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@578	対馬宗家文書	1	第1期: 137 reels 第2期: 96 reels 第3期: 120 reels	第1期: 慶應義塾 図書館・大韓民 国国史編纂委員 会・東京国立博 物館 第2期: 東京大学 史料編纂所 第3期: 国立国会 図書館 編本の監修: 田代 和生・李燾 田代, 和生	ゆまに書房	対馬藩宗家文書のうち、朝鮮国王が12回にわたって江戸幕府に派遣した外交使節団・朝鮮通信使の記録。対馬宗家文書とは江戸の鎖国時代に朝鮮と徳川幕府の橋渡し役だった対馬藩の藩政日記など260年間にも及ぶ膨大な資料の総称です。慶應義塾図書館所蔵本を中心に、欠けている江戸時代初期の信使記録等を大韓民国国史編纂委員会の所蔵資料と東京国立博物館の所蔵資料を補って刊行されました。本マイクロフィルムは、以下のとおり第1期～第3期に分かれています。  第1期: 『朝鮮通信使記録』 江戸幕府には朝鮮外交を職掌する機関が存在しなかったため、宗家の「信使記録」が江戸時代の記録のすべてです。この記録は、江戸時代の政治・外交・貿易・交通史のみならず、比較文化史や、服飾・食物・文学・思想・美術・音楽史等、第一級の文化史料ともいえます。  第2期: 『江戸藩邸毎日記』 300年間の日朝「交隣」関係の実態を活写 朝鮮通信使の来日交渉、日朝外交の実務推進、倭館貿易で利潤を得て成り立った対馬藩財政の実態を示す史料。藩政の中核部である表書札方が書きあげた『毎日記』は通信使記録や倭館記録を再度検証する重要史料です。江戸初期から幕末期まで、長いスケールで書き継がれ、藩政内部のことにとどまらず、日朝外交・貿易などをめぐる幕府との交渉、幕閣や諸大名・公家衆・寺社方などと交換された書状の写し、朝鮮渡来を含む贈答品、江戸町方のことなど、政治史・法制史・文化史・美術史・対外関係史・経済史等、近世史全般にわたっています。  第3期: 『倭館守日記・裁判記録』	歴史/日本/江戸以前:政治・外交/日本/江戸以前	・(付録)『第1期 朝鮮通信使記録』別冊上・中・下(YA@578@1@Guide-1~3)(3階マイクロ索引)  ・(付録)『第2期 江戸藩邸毎日記』別冊上・中・下(YA@578@2@Guide-1~3)(3階マイクロ索引)  ・(付録)『第3期 倭館守日記・裁判記録』別冊上・中・下(YA@578@3@Guide-1~3)(3階マイクロ索引)  慶應義塾所蔵分については慶應義塾大学文学部古文書室の所蔵古文書検索システムで目録を検索できる。 <a href="https://kmj.flet.keio.ac.jp/schedule.html">https://kmj.flet.keio.ac.jp/schedule.html</a> (参照2018年11月29日)		16 mm
YA@201	早稲田大学所蔵大隈文書	1		早稲田大学図書館	東京: 雄松堂マイクロフィルム出版, 1977.	大隈重信(1838-1922)は、明治維新政府の要職にありましたが、明治41(1881)年の政変で下野し、立憲改進黨を組織するとともに東京専門学校(早稲田大学)を創立、その後外相を歴任しながら、進歩党・憲政黨などを結成、明治31(1898)年には史上初の政党内閣を組閣し、大正3(1914)年にも第二次大隈内閣を組織しました。卓越した見識と強靱な意志で、藩閥に抵抗しながら議會主義をつらぬいた明治の政治家です。本マイクロ資料はその波乱をきわめた80余年の政治生活の諸相を大隈自身の手で完全に保存していたものをマイクロ化したもので、明治史の基本史料とすることができます。	政治・外交/日本/明治	・早稲田大学編集「大隈文書目録」B5判296頁  ・「同補遺」B5判48頁別にリール別索引 早稲田大学古典籍総合データベースに収録され、マイクロフィルム未収録分も含めて全資料が公開されている。大隈重信関係資料 <a href="http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/ga_okuma/index.html">http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/ga_okuma/index.html</a> (参照2018年11月29日)		35mm  ・早稲田大学古典籍総合データベース(大隈重信関係資料)に全資料が収録されている。 <a href="http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/ga_okuma/index.html">http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/ga_okuma/index.html</a> (参照2018年11月29日)
YA@593	屋代弘賢・不忍文庫蔵書目録: 慶應義塾図書館所蔵	1	2巻	屋代弘賢 慶應義塾大学図書館	東京: 国際マイクロ, 2001.	江戸中後期の国学者・考証家である屋代弘賢の所有していた蔵書の自筆蔵書目録です。その数は5万巻を数え、書庫三棟を持つという大規模なものであり、上野不忍池畔にあったことから「不忍文庫」の名をもって知られていました。  江戸期の個人文庫としては質・量ともに最高級の文庫です。蔵書構成は、文学・歴史・哲学など人文科学にとどまらず、自然・社会科学の文献も含み、近世紀の学术界全てを包括しています。慶應義塾図書館所蔵の「屋代弘賢・不忍文庫蔵書目録」(全27冊)を原本とし、編集などを加えずにマイクロフィルム2巻にまとめたものです。  YA@593@1: 『屋代弘賢・不忍文庫蔵書目録: 慶應義塾図書館所蔵』1冊～13冊目まで収録 YA@593@2: 『屋代弘賢・不忍文庫蔵書目録: 慶應義塾図書館所蔵』14冊～27冊目まで収録	図書/日本/江戸以前	・『屋代弘賢・不忍文庫蔵書目録: 慶應義塾図書館所蔵』(RA@025.1@s8@1-55-1~6)	(原本) 『不忍文庫蔵書目録』(110X@153@27)貴重書	ネガ 35 mm
YA@604	横濱正金銀行: マイクロフィルム版	1	227リール	武田晴人編集	東京: 丸善, 2003.	横濱正金銀行は、生みの親大隈重信、後見役福澤諭吉、育ての親松方正義、と称され、明治末期には後に日銀総裁、大蔵大臣、総理大臣をも歴任した高橋是清を頭取とするなど、日銀とともに国家財政と内外金融の要となり、我が国近代金融史、経済史、政治史上、見過ごすことのできない重要な役割を果たしました。  本資料は、明治13年、外国為替・金融の専門銀行として誕生し、67年間に亘り波乱と激動の時代を刻んだ横濱正金銀行の歴史を語る未公開行内資料です。横濱正金銀行の実質的な後継銀行である東京銀行が1980年に公刊した「横濱正金銀行全史」編集の基礎的一次資料であり、いずれの資料も本出版を通じて初めて全面公開されるものです。  収録資料は、監査役要録、頭取席要録、決算関係資料、所願伺・通達・行報、岸資料などがあり、為替金融の諸刻面を明らかにするほか、組織の機構・人事・諸事務規定、あるいは銀行全体に関わる業務上の法律問題・内外商慣習・事務手続き・注意事項・主要取引先に関する業況、営業成績概観などが明らかとなります。	金融・財政/日本/明治:金融・財政/日本/大正:金融・財政/日本/昭和:政治・外交/日本/明治:政治・外交/日本/大正:政治・外交/日本/昭和:経済・経営/日本/明治:経済・経営/日本/大正:経済・経営/日本/昭和		・東京銀行.1980-1984年.『横濱正金銀行全史』東京:東京銀行(BC@8A@361@1~6)	

請求記号 callno	タイトル title	資料形態 figure	巻数・枚数 volume	編集者・原本所蔵館 editor_holding	出版社 publisher	内容解説 description	分野category	検索ツール tool	関連文献 reference	備考 note
YA@485	[Archives in the Japanese Ministry of Foreign Affairs, Tokyo, Japan, 1868-1945] [microform]. [Showa documents, 1926-]	0	722巻	外交史料館	Washington :Photoduplication Service, Library of Congress ,1954	<p>本資料は、戦前の外務省記録を部分的にマイクロフィルム化したものです。</p> <p>外務省創立から第2次大戦終結までの約80年に渡る外務省記録は、4万件以上のファイルに整理・編集され、外交史料館で保存されています。外務省における公信、電信、契約書、諸帳簿等、公務に関するすべての書類のうち、処理済となったものが「記録文書」で、この「記録文書」を事件・事項別に編纂(ファイリング)したものが「記録」です。外務省記録には、外務省独自の分類番号と、記録文書の内容を示す件名が付けられています。</p> <p>分類は階層式で、大項目の「門」、中項目の「類」、小項目の「項」、昭和期の記録に関してはさらに細項目の「目」が設定されています。最後に一件ごとの記録を示す「号」が付されます。</p> <p>明治・大正期は「8門式分類法」(1門(政治)、2門(条約)、3門(通商)などの計8門)によって、昭和戦前期は「ABC式分類法」(A門(政治・外交)、B門(条約)、E門(経済)などの計16門)によって編纂されました。</p> <p>占領下の日本では、米国内務省の支援のもと、Library of Congress(米国議会図書館)によって200万ページ以上の外務省記録がマイクロフィルム化されました。作業は1949年から1951年にかけて行われました。1954年にこのマイクロフィルムの目録である"Checklist of Archives in the Japanese Ministry of Foreign Affairs, Tokyo, Japan, 1868-1945"が出版されました。</p> <p>慶應義塾図書館ではこのうち、"Meiji-Taisho Documents"(明治・大正期文書)およびShowa Documents"(昭和期文書)を所蔵しています。ほかに"Unindexed Documents","Special Studies","Papers of the Parliamentary Vice-Minister, MATSUMOTO Tadao","Biographical Materials","Treaties","Documents of the International Military Tribunal","Telegrams"の7つのコレクションがありますが、慶應義塾図書館では所蔵していません。</p> <p>明治・大正のマイクロリールは「MT」昭和のリールは「S」ではじまっています。 明治・大正期文書(1867~1912):Reel 1~804 「8門式分類法」で分類されています。実際には1926年前後の文書も含まれています。 昭和期文書(1926~1945):Reel 1~722 「ABC式分類法」のABCにあたる部分が数字に置き換えられています。 公式文書だけでなく、草稿や傍注も含まれており、戦前期の日本の政策決定過程への理解を深めることができる資料です。</p>	政治・外交/日本/明治:政治・外交/日本/昭和	<p>・(付録)Checklist of Archives in the Japanese Ministry of Foreign Affairs, Tokyo, Japan, 1868-1945(YA@204@YA@485)(3階マイクロ索引)</p> <p>上記のデジタル版 https://catalog.hathitrust.org/Record/001596569 (参照2018年11月30日)</p> <p>・(付録)『日本外交文書』(YA@485@Index)(3階マイクロ索引)1巻~430巻までの収録内容一覧。 アジア歴史資料センターで一部がインターネット公開されています。https://www.jacar.go.jp/(参照2018年11月30日)</p>	<p>・『外務省記録: 明治・大正篇, 1868-1926』(YA@204)</p> <p>・外務省外交史料館編纂.1992-1993年.『外交史料館所蔵外務省記録総目録:戦前期』東京:原書房(A@319.1@G4@3-)</p> <p>Records of Former German and Japanese Embassies and Consulates, 1890-1945米国国立公文書館のサイトのオンライン複写申込ページ外部サイトへのリンクでアメリカ歴史協会戦史研究委員会作成のFinding Aid(PDF版)を見ることができる ("microfilm"タブを選択し、"Search &amp; Browse NARA's Microfilm Catalog"にT179を入力して検索)。</p>	<p>その他タイトル = Archives in the Japanese Ministry of Foreign Affairs</p> <p>・アジア歴史資料センターで一部公開 https://www.jacar.go.jp/(参照2018年11月30日)</p>
YA@204	[Archives in the Japanese Ministry of Foreign Affairs, Tokyo, Japan, 1868-1945] [microform]. [Meiji-Taisho documents, 1867-1912]	1	804巻	外交史料館	Washington :Photoduplication Service, Library of Congress ,1954.	<p>本資料は、戦前の外務省記録を部分的にマイクロフィルム化したものです。</p> <p>外務省創立から第2次大戦終結までの約80年に渡る外務省記録は、4万件以上のファイルに整理・編集され、外交史料館で保存されています。外務省における公信、電信、契約書、諸帳簿等、公務に関するすべての書類のうち、処理済となったものが「記録文書」で、この「記録文書」を事件・事項別に編纂(ファイリング)したものが「記録」です。外務省記録には、外務省独自の分類番号と、記録文書の内容を示す件名が付けられています。</p> <p>分類は階層式で、大項目の「門」、中項目の「類」、小項目の「項」、昭和期の記録に関してはさらに細項目の「目」が設定されています。最後に一件ごとの記録を示す「号」が付されます。</p> <p>明治・大正期は「8門式分類法」(1門(政治)、2門(条約)、3門(通商)などの計8門)によって、昭和戦前期は「ABC式分類法」(A門(政治・外交)、B門(条約)、E門(経済)などの計16門)によって編纂されました。</p> <p>占領下の日本では、米国内務省の支援のもと、Library of Congress(米国議会図書館)によって200万ページ以上の外務省記録がマイクロフィルム化されました。作業は1949年から1951年にかけて行われました。1954年にこのマイクロフィルムの目録である"Checklist of Archives in the Japanese Ministry of Foreign Affairs, Tokyo, Japan, 1868-1945"が出版されました。</p> <p>慶應義塾図書館ではこのうち、"Meiji-Taisho Documents"(明治・大正期文書)およびShowa Documents"(昭和期文書)を所蔵しています。ほかに"Unindexed Documents","Special Studies","Papers of the Parliamentary Vice-Minister, MATSUMOTO Tadao","Biographical Materials","Treaties","Documents of the International Military Tribunal","Telegrams"の7つのコレクションがありますが、慶應義塾図書館では所蔵していません。</p> <p>明治・大正のマイクロリールは「MT」昭和のリールは「S」ではじまっています。</p>	政治・外交/日本/明治:政治・外交/日本/大正	<p>・(付録)Checklist of Archives in the Japanese Ministry of Foreign Affairs, Tokyo, Japan, 1868-1945(YA@204@YA@485)(3階マイクロ索引)</p> <p>アジア歴史資料センターで一部がインターネット公開されています。https://www.jacar.go.jp/(参照2018年11月30日)</p>	<p>・『外務省記録: 昭和編, 1926-1945』(YA@485)</p> <p>・外務省外交史料館編纂.1992-1993年.『外交史料館所蔵外務省記録総目録:戦前期』東京:原書房(A@319.1@G4@3-)</p>	<p>その他タイトル = Archives of the Japanese Ministry of Foreign Affairs</p> <p>・アジア歴史資料センターで一部公開 https://www.jacar.go.jp/</p>
YA@526	Newspapers, pamphlets, and handbills banned by the Police Bureau, Ministry of Home Affairs, Japan, 1928-1940	1	36 reels	Library of Congress (米国議会図書館) 1974年に日本の国立公文書館に返還。	Washington D.C. : Library of Congress, [19--]	<p>1928年から1940年に内務省警保局で検閲を受けた新聞、ピラ、パンフレット類の集成で、終戦時にGHQに接収された資料と思われる。収録範囲の1928年~1940年は張作霖爆殺事件、満州事変、日中戦争から真珠湾攻撃前年までという太平洋戦争開戦前夜の激動期にあたります。収録されている資料の内容自体もさることながら、資料中に×印や傍線、意見が記入されている箇所も見られ、当時の政府の言論統制や政策を知ることの出来る貴重な資料です。</p> <p>収録は大きく以下のように分類され、さらに年代順に収録されています。</p> <p>Reel 1~Reel 8 一般新聞類 Reel 9~Reel 11 右翼関係 Reel 12~Reel 31 雑 Reel 32~Reel 35 社会運動通信 Reel 36 全国労働新聞</p>	雑誌・新聞/日本/昭和:社会思想・社会問題/日本/昭和	<p>『戦前・戦後検閲資料及び文書(1955年以前): 米国議会図書館マイクロ化資料チェックリスト』(A@312.1@L1@1-1~3) 国立公文書館デジタルアーカイブ https://www.digital.archives.go.jp/(2018年11月30日)</p>	<p>・『出版警察報』複製版. 龍溪書舎, 1981-1982 (地下4階)</p> <p>・『出版警察資料』複製版. 不二出版 (地下4階)</p> <p>・粟屋憲太郎, 中園裕編. 1996年. 『内務省新聞記事差止資料集成』日本図書センター (JR@19A@1826@3)</p>	